



HONDA

S660

OWNER'S GUIDE

オーナーズガイド

このオーナーズガイドは基本的な操作、安全に関する情報、万一の場合に必要な情報が掲載されています。

さらに、詳しい取扱情報は取扱説明書に掲載されていますので、車両にお乗りになる際には、取扱説明書もお読みください。

■取扱説明書のご案内

Honda ホームページにて、取扱説明書を電子データ形式で、ご提供しています。

取扱説明書の提供ページで、モデル名と年式を選択し、閲覧をしてください。

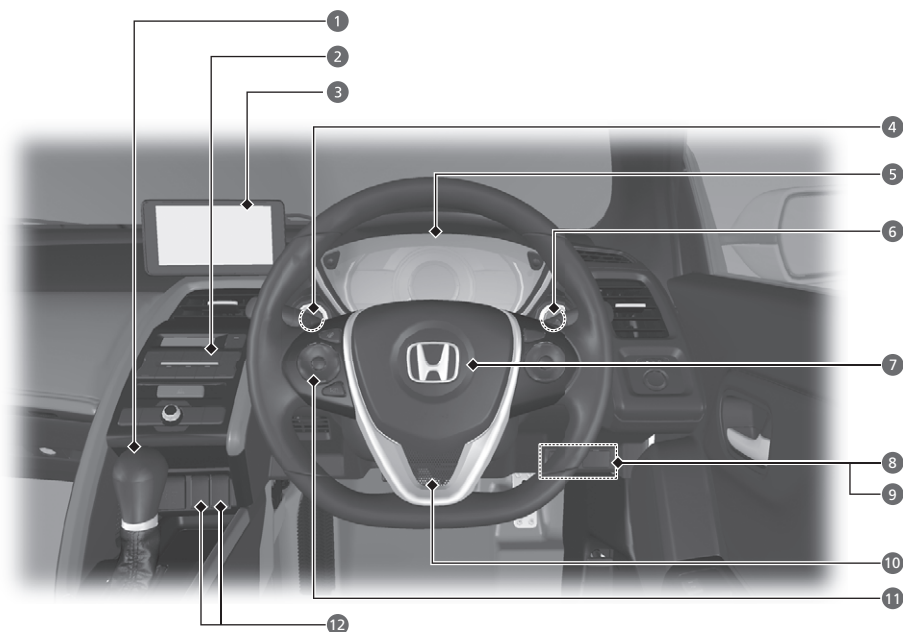
取扱説明書の提供ページ

<http://www.honda.co.jp/ownersmanual/HondaMotor/auto/>

なお、Honda ホームページからは、検索ボックスに『取説』と入力することで、この提供ページを検索できます。

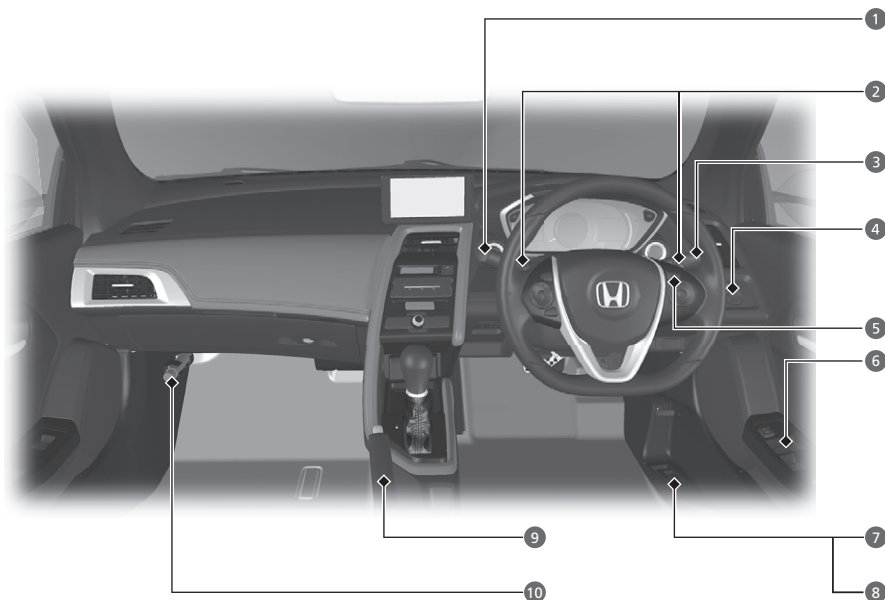
また、紙書籍版の取扱説明書は、Honda 販売店にて、ご購入いただけます。

ご購入を希望される方は、Honda 販売店にご相談ください。



- ① セレクトレバー／チェンジレバー (P.67, 69)
- ② オートエアコン (P.47)
- ③ センターディスプレイ (スマートフォン連携ナビ対応オーディオ)* (P.54)
- ④ SELECT モードスイッチ* (P.31)
SPORT モードスイッチ* (P.70)
- ⑤ 警告灯 (P.22)
- ⑥ ENGINE START/STOP スイッチ (P.41)
- ⑦ SRS エアバッグシステム (P.12)
- ⑧ CTBA OFF スイッチ* (P.79)
- ⑨ VSA OFF スイッチ (P.74)
- ⑩ ハンドル位置調節レバー (P.43)
- ⑪ オーディオリモートコントロールスイッチ (P.49)
- ⑫ USB/HDMI[®]*/AUX* ジャック (P.48, 49)

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



- ① ワイパー／ウォッシャースイッチ (P.42)
- ② シフトスイッチ＊ (P.69)
- ③ ライト／方向指示器 (ウィンカー) スイッチ (P.42)
- ④ ドアミラー調節スイッチ (P.44)
- ⑤ クルーズコントロールスイッチ＊ (P.71)
- ⑥ パワーウィンドースイッチ (P.37)
- ⑦ フューエルリッドオープナー (P.83)
- ⑧ リヤフード解除ノブ (P.89)
- ⑨ パーキングブレーキ (P.74)
- ⑩ 発炎筒 (P.101)

この「＊」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■はじめに	5	ハンドルまわりのスイッチ操作	41
安全に関する表示	5	ENGINE START/STOP	
サービス診断記録装置について	5	スイッチ	41
データの開示について	6	ライトスイッチ	42
		ワイパー/ウォッシャー	42
■安全なドライブ	7	イルミネーション	43
安全なドライブのために	7	ハンドルの調節	43
シートベルト	7	ミラー類の調節	44
シートベルトの着用	8	シートの調節	45
シートベルトの点検	10	シート	45
シートベルトのアンカーポイント	11	室内装備品	46
エアバッグ	11	エアコン	47
SRS エアバッグ	12		
サイドエアバッグ	13	■オーディオ	48
エアバッグシステム警告灯／		オーディオ装置	48
表示灯	15	取り扱いについて	48
エアバッグのお手入れ	16	USB/HDMI [®] ＊ ジャック	48
お子さまの安全	16	AUX ジャック (外部入力端子) ＊	49
乳幼児の安全	17	オーディオリモートコントロール	
大きなお子さまの安全	20	スイッチ	49
排気ガスの危険性	21	iPod 対応 USB プレーヤー／	
一酸化炭素について	21	FM・AM チューナー ＊	50
		基本操作	50
■計器の見かた	22	画面の切り換え	50
警告灯と表示灯	22	音質、バランス、車速連動の	
警告灯	22	音量調整	51
表示灯	27	ラジオの使いかた	51
メーターとインフォメーション		iPod の使いかた	52
ディスプレイ	30	USB デバイスの使いかた	53
		センターディスプレイ (スマートフォン	
■各部の操作	32	連携ナビ対応オーディオ) ＊	54
時計の時刻を合わせる	32	基本操作	54
ドアの施錠と解錠	33	画面の切り換え	54
キーの種類と機能	33	音質、バランス、車速連動の	
Honda スマートキーの		音量調整	55
微弱電波	34	G メーター表示画面	55
車外でのドアの施錠／解錠	35	ラジオの使いかた	56
車内での施錠／解錠	36	iPod の使いかた	56
セキュリティシステム	36	USB デバイスの使いかた	57
ウィンドーの開閉	37	Bluetooth オーディオの	
ロールトップ	38	使いかた	57
		ビデオ機器などの接続	57

スマートフォン連携 [*]	58	前面方向指示器／前面非常点滅 表示灯電球	93
Internavi POCKET の使いかた	58	車幅灯電球	93
ハンズフリーテレフォン [*]	60	側面方向指示器／側面非常点滅 表示灯電球	94
■運転	63	制動灯／尾灯電球	94
運転の前に	63	後面方向指示器／ 後面非常点滅表示灯	94
運転操作	65	後退灯電球	95
エンジンの始動	65	ハイマウントストップランプ電球	95
走行時の注意点	66	番号灯電球	96
シフト操作	67, 69	ワイパーブレードラバーの点検と 整備	96
SPORT モードスイッチ [*]	70	タイヤの点検と整備	97
アイドリングストップシステム [*]	70	冬期のタイヤ	99
クルーズコントロール [*]	71	清掃	99
VSA (ピークルスタビリティ アシスト)	73	■万一の場合には	101
ブレーキ操作	74	発炎筒	101
ABS (アンチロックブレーキ システム)	75	パンクしたタイヤの応急修理	101
電子制御ブレーキアシスト	75	ジャッキの取り扱い	109
エマージェンシーストップシグナル	75	エンジンが始動しない	111
シティブレーキアクティブ システム [*]	76	エンジンの状態の確認	111
駐停車操作	81	Honda スマートキーの電池が 切れたとき	112
リヤカメラシステム [*]	82	緊急時のエンジン停止方法	112
給油	82	ジャンプスタート	113
ターボ車について	85	セレクトレバーが動かない	116
エンジンオイルメンテナンス表示灯	85	オーバーヒート	116
アクセサリーと改造	86	ヒューズ	118
■メンテナンス	87	ヒューズの点検と交換	122
メンテナンスの前に	87	けん引	123
点検整備について	87	■こんなときは	125
メンテナンスを安全に行うために	87	■仕様	127
エンジンルーム／フロントコンパート メント内のメンテナンス	89	■索引	129
リヤフードを開ける	89		
フロントフード (ボンネット) を開ける	90		
推奨エンジンオイル	91		
ウィンドウォッシャー液の補給	91		
電球の交換	92		
ヘッドライト電球	92		

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

アドバイス

お車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Honda および Honda が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

安全なドライブのために

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
 - **シートベルトの着用** P.8
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
 - **お子さまの安全** P.16
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]またはチェンジレバーを上り坂の場合[1]、下り坂と平地の場合[R]にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
 - **シフト操作** P.67, 69

シートベルト

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■ 三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■ シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

⚠ 警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。
シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーを装備しています。シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

⚠ 注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

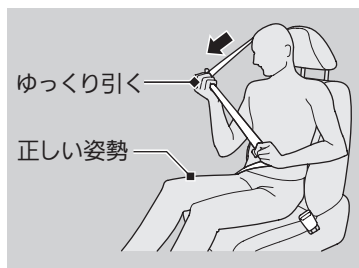
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

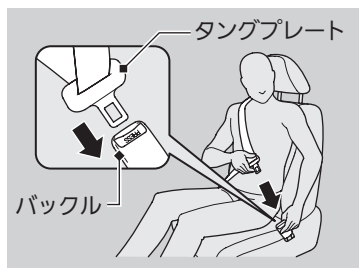
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。

▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。



4. ベルトを、腰骨のできるだけ低い位置にかかるとに合わせる。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

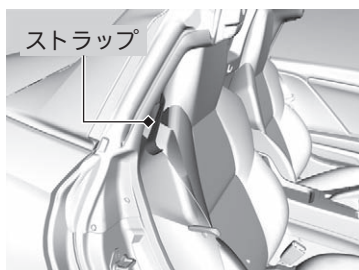
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをす
るおそれがあります。

ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の **PRESS** を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

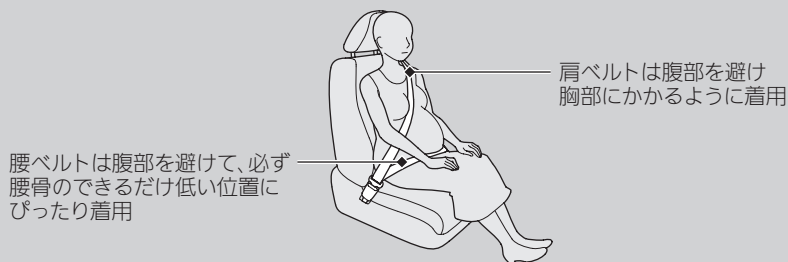
シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。



シートベルトを使用するときは、必ずベルトをストラップの中に通してください。

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



⚠ 注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。

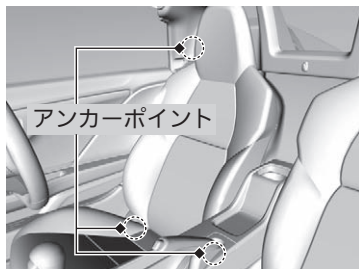
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。

シートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグ

エアバッグの種類

エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- SRS エアバッグ：シートの前方向エアバッグ
- サイドエアバッグ：シートの横方向エアバッグ

⚠ 警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠ 注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。

エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。

前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS:サプリメンタルレストレイントシステム (Supplemental Restraint System) の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

■ SRS エアバッグの作動

前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRS エアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRS エアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20 ～ 30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果が無いので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

サイドエアバッグ

側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

⚠ 注意

ドアやその周辺にアクセサリなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

ドアに寄りかからない。

サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

シートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

■作動のしくみ

サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていしますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果が無いので作動しません。

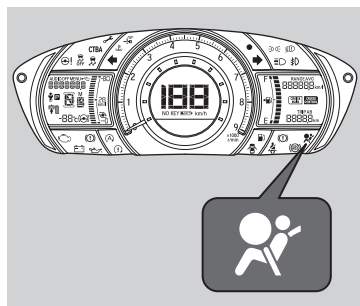
- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

エアバッグシステム警告灯／表示灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯や表示灯で知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

⚠ 警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全

お子さまの安全を守るために

お子さまはリヤシートのある車に乗せてください。

- ▶ この車にお子さまを乗せることはおすすめしません。SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。また、お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。

やむをえずお子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上にさせないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 車外に手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ やむをえず幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。

警告



AIRBAG

シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。

お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

この車に設置することはできません。

警告

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席のSRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■幼児のチャイルドシート

助手席にチャイルドシートを設置すると、衝突したときにSRS エアバッグで強い衝撃を受けるおそれがあります。

やむをえずチャイルドシートを設置するときは、取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されると SRS エアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付け車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること

UN-ECE R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。

次の表を参照して、それぞれの着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ		前席 助手席
チャイルドシート重量区分		
グループ 0	～ 10kg	X
グループ 0	～ 13kg	X
グループ I	9kg ～ 18kg	UF
グループ II	15kg ～ 25kg	UF
グループ III	22kg ～ 36kg	UF

記号の説明

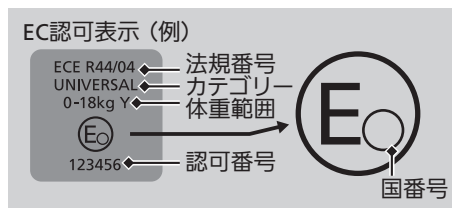
UF：汎用型（ユニバーサル）チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。

X：チャイルドシートを取り付けできません。

チャイルドシートに関する国連の安全基準である UN-ECE R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

UF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL（汎用）と案内されているものもあります。



シートの種類や取り付けの向きにより固定金具（ロッキングクリップ）が必要になる場合があります。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

⚠ 警告

三点式シートベルトが正しく着用できないお子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

■ジュニアシートについて

ジュニアシートを使用する場合、安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

排気ガスの危険性

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。

以下の場合、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

警告灯と表示灯

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯

警告灯

点灯／点滅する状況など

ブレーキ警告灯
(レッド)[※]



- パーキングブレーキをかけたときに点灯
- ブレーキフルード量が低下したときに点灯
- ブレーキシステムが異常のときに点灯
- 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください
- ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください

ブレーキシステム
警告灯 (オレンジ)[※]



- ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯
- シティブレーキアクティブシステム^{*}が異常のとき点灯
- 走行中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください

※：パワーモードを ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。

^{*}：タイプやオプションなど、装備が異なります。

警告灯

点灯／点滅する状況など

油圧警告灯※



- エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯
- **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください

点灯したらすぐすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

車を停車してからすること

1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。
2. リヤフードを開け、エンジンオイルの量を確認する。
 - ▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
 - ▶ **消灯した**：運転を再開してください。
 - ▶ **10 秒以内に消灯しない**：エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

アドバイス

- 油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります

PGM-FI 警告灯※



- エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅
- **走行中に点灯** = 高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください
- **走行中に点滅** = 枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください
- エンジン再始動後、再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください

アドバイス

- PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります

充電警告灯※



- バッテリーが充電されていないと点灯
- **走行中に点灯** = 電気の消費量を減らすため、エアコンなどを OFF にし、対処してください
- 一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します

※：パワーモードを ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。

警告灯

点灯／点滅する状況など

トランスミッション
警告灯*



- トランスミッションが異常のときに点滅
- 運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください

シートベルト
非着用警告灯



- 運転席または助手席のシートベルトを着用しないと点灯
- シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます

燃料残量警告灯



- 燃料の残量が少なくなると点灯
点灯するのは、タンクに残っている残量がおおよそ 4 リットルになったときです
- 燃料計に異常があるときは点滅
- 点灯したら早めに給油してください
- 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください

ABS (アンチロック
ブレーキシステム)
警告灯*



- ABS が異常のときに点灯
- 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください

エアバッグシステム
警告灯*



- エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムの異常を検出すると点灯
- 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください

高水温警告灯
(レッド)*



- エンジン冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯
- **走行中に点滅** = ゆっくり走行してください
- **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に車を停車し、エンジンを冷やしてください

■オーバーヒート P.116

※：パワーモードを ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。

※：タイプやオプションなど、装備が異なります。

警告灯	点灯／点滅する状況など
VSA（ビークルスタ ビリティアシスト） 警告灯※ 	• VSA が作動しているときは点滅 • ヒルスタートアシスト、発進補助ブレーキ機能[*]、ブレーキアシストシステム、VSA システムのいずれかが異常のときに点灯 • 運転中に点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています

VSA OFF 警告灯※



• VSA を OFF にすると点灯

オートライトコン
 トロール警告灯※



• オートライトコントロールシステム、ロービームヘッドライトシステムが異常のとき点灯

• 運転中に点灯した場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください

ドア／フロントフード
 開閉警告灯※



• ドア、フロントフードが完全に閉まっていないとき点灯

EPS（電動パワース
 テアリング）システ
 ム警告灯※



• EPS システムの機能に異常があると点灯

点灯したらすること

• 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください

アイドリングストッ
 プシステム警告灯^{*}
 （オレンジ）※



• アイドリングストップシステムに異常があるときに点灯

• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください

※：パワーモードを ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。

※：タイプやオプションなど、装備が異なります。

警告灯

点灯／点滅する状況など

セレクトポジション

P移動警告灯*



- セレクトレバーが**P**以外のときに、パワーモードが ON モードからアクセサリモードになると表示
- アイドリングストップ中に、リヤフードなどを開けると点灯
- パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを**P**にして、ブレーキを踏まずに**ENGINE START/STOP**を 2 回押してください
- エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください

エンジンの始動 P.65

スターターシステム

警告灯*



- スターターシステムが異常のときに点灯
- ブレーキを踏んだまま**ENGINE START/STOP**をエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください

Honda スマートキー

システム警告灯*



- Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯
- 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください
 - 運転中に点灯した
 - エンジン始動後も消灯しない
 - パワーモードが OFF モードのときに数秒間点灯した
 - パワーモードを OFF モードにしたときに数秒間点灯した

Honda スマートキー

電池消耗警告灯



- Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、ブザーと同時に点灯

Honda スマートキー

持ち去り警告灯

NO KEY

- Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示
- Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると消灯します

※：パワーモードを ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。

※：タイプやオプションなど、装備が異なります。

表示灯

表示灯	点灯／点滅する状況など
低水温表示灯 (ブルー) 	- エンジン冷却水の温度が低いときに点灯 - 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください
アイドリングストップ表示灯* (グリーン) 	アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯
ブレーキ踏み込み不足表示灯* 	- ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに点滅 - ブレーキペダルを踏み込んでください
エンジンオイルメンテナンス表示灯※ 	- エンジンオイルの交換時期が近づくと点滅 - エンジンオイルの交換時期が過ぎると点灯 ➡ エンジンオイルメンテナンス表示灯 P.85
方向指示器表示灯 	- 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 - 点滅しない／点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください ➡ 電球の交換 P.93, 94
セキュリティアラームシステム作動表示灯 	ENGINE START/STOP を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅 ENGINE START/STOP を押したあと、点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください - 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください - セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅 ➡ セキュリティアラームシステム P.36

※：パワーモードを ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。

※：タイプやオプションなど、装備が異なります。

表示灯

点灯／点滅する状況など

セレクトポジション
表示灯*

- 現在のポジションを表示



ハイビーム表示灯

- ヘッドライトを上向きにしたときに点灯



ライト点灯表示灯

- ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯（AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯）



ハンドル操作表示
灯

- ハンドルのロックが解除されていないときに点灯
- **ENGINE START/STOP** を押しながら、ハンドルを左右に動かします



クルーズメイン表示
灯*

- **CRUISE** スイッチを押して、クルーズコントロールを ON にすると点灯



クルーズコントロー
ル表示灯*

- クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯



※：パワーモードを ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。

❖：タイプやオプションなど、装備が異なります。

表示灯	点灯／点滅する状況など
シティブレーキアクティブシステム表示灯[※] CTBA	- 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り表示灯が点滅 ▶ 減速などして十分な車間距離を確保してください。車間距離が確保されると警報は消えます。 ▶ 衝突のおそれがあると、自動でブレーキがかかります。 - システムにより車両が停車したときは、ブザーが鳴り止み、表示灯は 10 数秒点滅した後、消灯 - CTBA OFF でシステムを停止すると点灯 - フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点滅 ▶ 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ▶ 安全な場所に停車して、レーザーセンサー付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 ▶ 遮蔽物が落ちるとシステムは復帰します。 雨、霧、雪など悪天候のときも点滅することがあります - フロントフードに雪などが積もっているときに点滅することがあります - フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度が高くなると点滅することがあります ▶ エアコンで室内温度を下げるなどしてフロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度を下げてください。 - システムに異常があるとブレーキシステム警告灯（オレンジ）と共に点灯 ▶ システムは作動しません。Honda 販売店で点検を受けてください。

※：パワーモードを ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。

※：タイプやオプションなど、装備が異なります。

メーターとインフォメーションディスプレイ

■燃料計

アドバイス

燃料計が「E」に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

■タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上（レッドゾーン）に入らないよう運転してください。

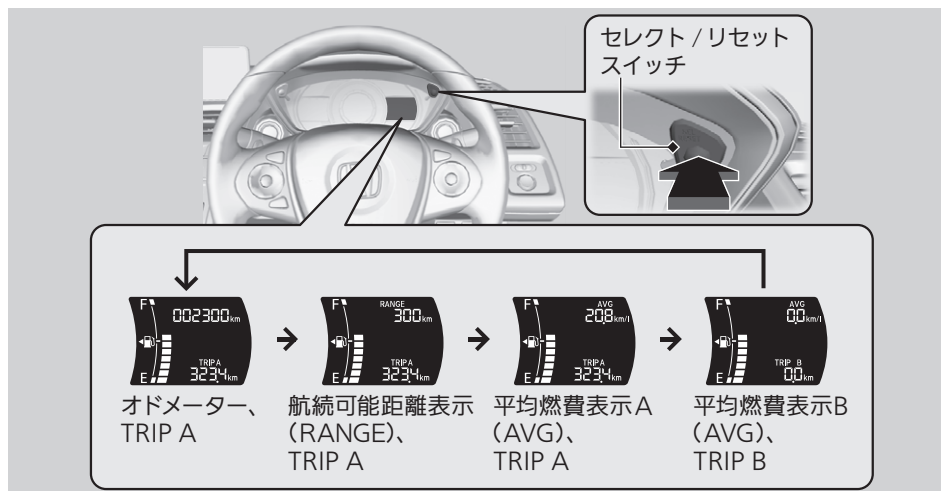
特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示などが表示されます。

■表示の切り換えかた

セレクト／リセットスイッチを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



■ターボブースト表示

ターボブースト表示



ターボチャージャーの作動状態をバーグラフで表示します。

SPORT モードスイッチ* / SELECT モードスイッチ*を押すと、瞬間燃費表示がターボブースト表示に切り換わります。

3 各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

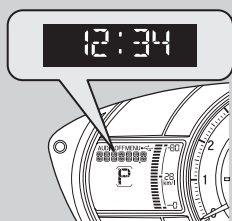
時計の時刻を合わせる

センターディスプレイ（スマートフォン連携ナビ対応オーディオ）装備車

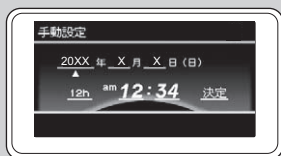
VOL/PUSH/SELスイッチを押す操作を、本文中では  と表します。

VOL/PUSH/SELスイッチを回す操作を、本文中では  と表します。

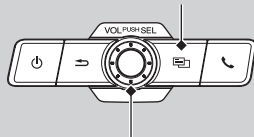
メーター側



オーディオインフォメーション
画面側



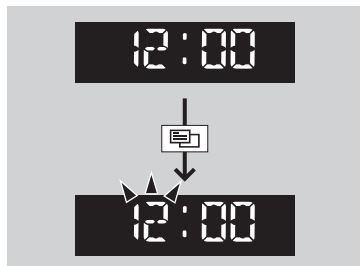
 (設定) スイッチ



VOL/PUSH/SEL スイッチ

1.  (設定) スイッチを押す。
2.  を回して「日時設定」を選択し、 を押す。
3. 手順2. と同様の操作で、「手動設定」を選択する。
4.  を回して調整したい項目を選択し、 を押す。
5. 最後に「決定」を選択し、 を押す。

時計はメーターに表示されます。



1. スイッチを押して、時計表示にする。
2. スイッチを押す。
3. スイッチを押して、時間を合わせる。
4. を押す。
5. スイッチを押して、時間を合わせる。
6. スイッチを押す。



7. / 、 スイッチを押して、「CLK 12H」、または「CLK 24H」を選択する。
8. スイッチを押す。

ドアの施錠と解錠

キーの種類と機能

エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドアの施錠／解錠に使用できます。キーについているボタンで、すべてのドアの施錠／解錠の操作ができます。

■ Honda スマートキー

Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
 - 電池交換時以外は分解しない
 - 改造しない
 - キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない
- 分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

⚠ 注意

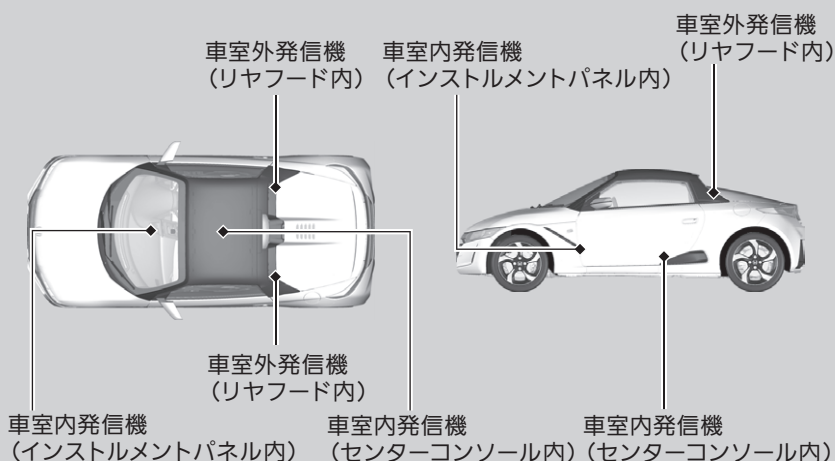
電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。

飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドアの施錠／解錠操作をするときやエンジンをかけるとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



⚠ 注意

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

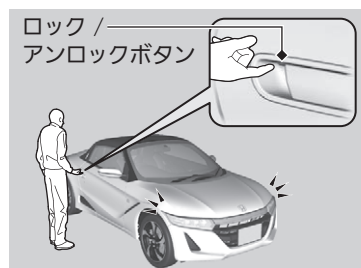
車外でのドアの施錠／解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠／解錠

Honda スマートキーを携帯し、ロック／アンロックボタンを操作することでドアの施錠や解錠を操作します。ドアの施錠／解錠が作動するのは、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドルから周囲約 80cm 以内です。

Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。

■ 施錠／解錠するには



運転席ドア、助手席ドアのロック／アンロックボタンを押します。

フロントフードが開いている状態でロック／アンロックボタンを押すと、「ピピピピピッ」とブザーが鳴り、施錠することができません。

■ キーレスエントリーシステムでの施錠／解錠



■ 施錠

施錠ボタンを押します。

■ 解錠

解錠ボタンを押します。

■ キーを差し込んでの施錠／解錠



キーを確実に差し込んで回します。
内蔵キーを取り出して操作してください。

セキュリティシステムがセットされているとき、内蔵キーで解錠するとセキュリティシステムが作動します。

車内での施錠／解錠

■ノブでの施錠／解錠



■施錠するには

ノブを押し込みます。

■解錠するには

ノブを引き出します。

運転席ドアのノブで施錠／解錠すると、助手席ドアも同時に施錠／解錠されます。

セキュリティシステム

システムを改造したりしないでください。エンジンシステムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、キーレスエントリースystemまたは、Honda スマートキーシステムを使わずにドア、フロントフード、リヤフードを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

キーレスエントリースystemまたは、Honda スマートキーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードになっている
- フロントフード、リヤフードが閉まっている
- キーレスエントリースystemまたは、Honda スマートキーシステムで車外からすべてのドアが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

キーレスエントリーシステムまたは、Honda スマートキーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、キーレスエントリーシステムまたは、Honda スマートキーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

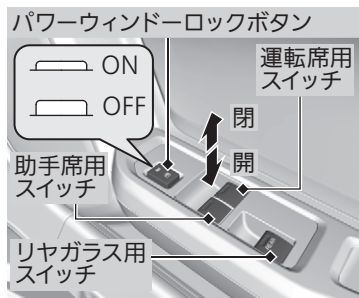
ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードを ON モードにしたときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、スイッチにある表示灯が消灯します。パワーウィンドーロックボタンを ON (表示灯点灯) にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。



開けるとき：スイッチを押す

閉めるとき：スイッチを引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

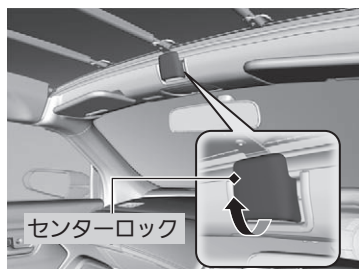
⚠ 警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

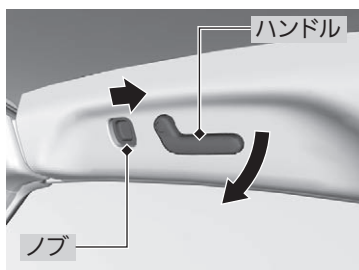
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

ロールトップ

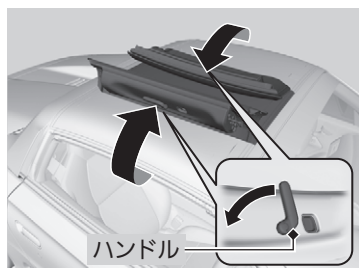
■ロールトップの取り外し



1. ドアを開ける、もしくはドアガラスを全開にする。
2. センターロックを解除する。



3. ノブを解除方向にスライドさせた状態で、左右のハンドルを下げる。



4. 左右から中央に向かって、ロールトップを折りたたむ。
▶ このとき左右のハンドルはロック位置に戻してください。



5. フロントフードを開ける。

■フロントフード（ボンネット）を開ける P.90

6. ユーティリティボックスの左右にあるロックを解除して、フタを開ける。

7. 車両正面からみてロールトップの識別タグが右側にくるように収納する。

8. ストラップで緩みがないようにロールトップを固定する。

▶ ステッチ（赤）A がバックルに隠れ、ステッチ（赤）B がバックル端部で見えるようにストラップを締めてください。

9. ユーティリティボックスのフタを閉じてロックする。

⚠ 注意

走行中や停車中に開口部から頭や手、ものなどを出さない。

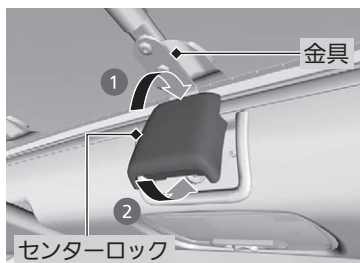
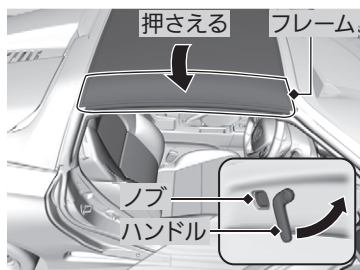
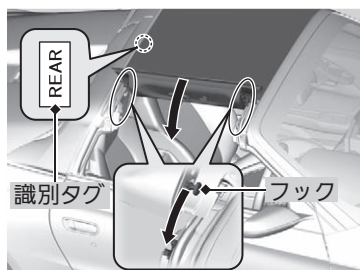
障害物や急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。

ロールトップの脱着は、必ず車両を安全な場所に停車させてからおこなってください。

ユーティリティボックスに荷物などを収納するときは、次の内容をまもって使用してください。

- フタは左右のロックで確実に閉める
- エンジン始動中はボックス内の温度が高くなるので、熱に弱いものは入れない
- ボックス内に水が浸入するおそれがあるので、水に濡れると困るものは直接入れない
- 走行中の振動などによって、荷物が傷ついたり、破損するおそれがあるので、壊れやすいものはボックスに収納しない
- ボックスの最大積載量 10kg を超える量の荷物を入れない

■ロールトップの取り付け



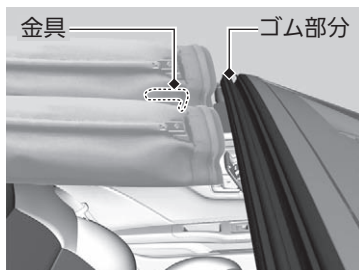
1. ドアを開けるもしくはドアガラスを全開にする。
2. ロールトップを車体の中央にのせる。
 - ▶ このとき左右のハンドルは解除位置にしてください。
 - ▶ 識別タグが、車体の後ろ側になるようにのせてください。
3. ロールトップを、左右が均等になるように広げているとき、ロールトップのフックを車体側の溝に取り付ける。
4. 左右のフレームの中央を下側に押さえながら、「カチッ」と音がするまで、ハンドルを引き上げてロックする。
 - ▶ ノブの赤い印が見えないのを確認してください。
 - ▶ フレームの押さえが不十分だと、正しい位置に機構が収まらず、車体側に傷がつくことがあります。
5. センターロックの上側をロールトップの金具に引っかける。
6. センターロックの下側を前方に押してロックを固定する。
7. ロールトップが完全に車体に固定されていることを確認する。

⚠ 警告

ロールトップは必ずセンターと左右のロックで固定する。

固定されていないと風にあおられるなどしてロールトップが外れ、死亡または重大な傷害を負うおそれがあります。

ロールトップは必ずセンターロックで固定してください。固定されていないと、雨や風が車内に侵入するおそれがあります。



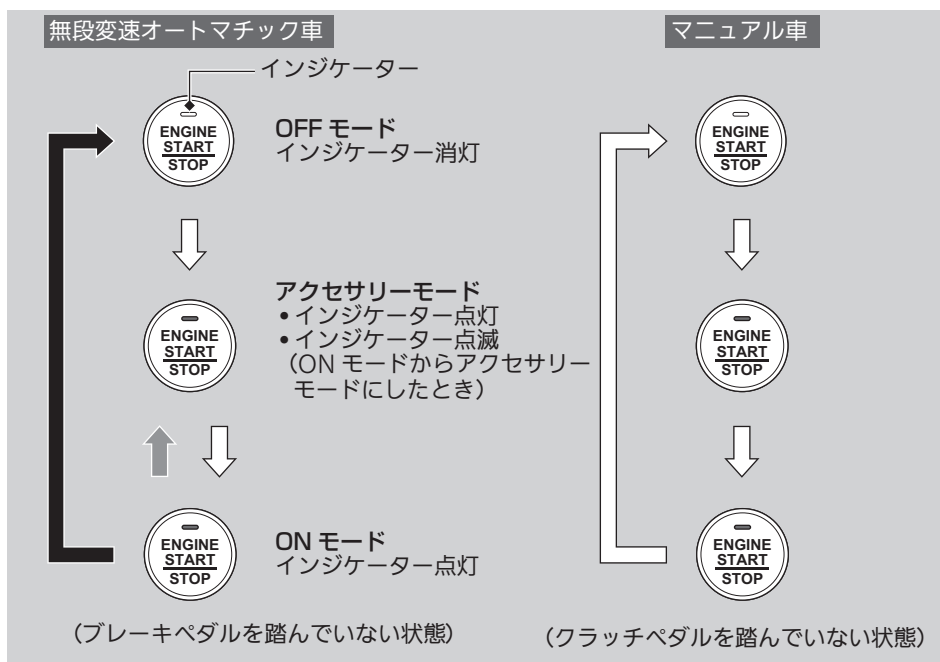
アドバイス

ロールトップ取り付けの際は、ロールトップの金具で車体のゴム部分を傷つけないように注意してください。

ハンドルまわりのスイッチ操作

ENGINE START/STOP スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



⇨ スイッチを押す

➡ セレクトレバーが[P]以外のときに、スイッチを押す

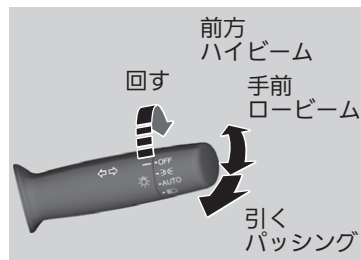
➡ セレクトレバーが[P]のときに、スイッチを押す

[ENGINE START/STOP]のパワーモードがOFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。

ハンドルを左右に回しながら、**ENGINE START/STOP**を押してください。ハンドルロックが解除されます。

ライトスイッチ

スイッチを回すとパワーモードの位置に関係なく、点灯／消灯します。



■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

 車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

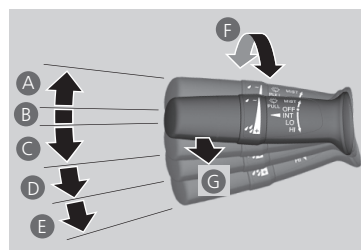
 ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

パワーモードが ON モードのとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯／消灯

ワイパー／ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■フロントワイパー／ウォッシャー



A : MIST (レバーを操作している間作動)

B : OFF 停止

C : INT 間欠 (雨量が少ないとき)

D : LO 低速 (普通の雨量のとき)

E : HI 高速 (雨量が多いとき)

F : 間欠時間の調節

G : ウォッシャー

■間欠時間の調節

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。

 間欠間隔が長い

 間欠間隔が短い

⚠ 注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。ポンプ故障の原因となります。

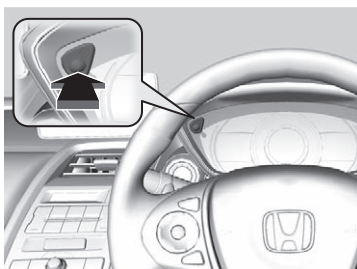
アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

イルミネーション

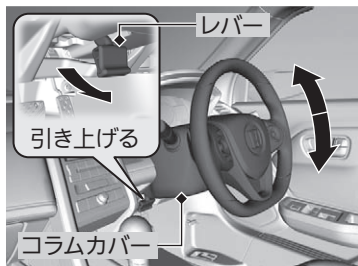


パワーモードが ON モードで、ライトスイッチを OFF 以外にすると、インストルメントパネル照明が減光します。

- ▶ イルミネーションスイッチを押すか、ライトスイッチを OFF にすると元の明るさに戻ります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
2. ハンドルの位置を調節する。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。

⚠ 注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあります。衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ミラー類の調節

ルームミラー



ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■防眩ミラー

ルームミラーは夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

ドアミラー



ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

左右切り換えスイッチ: 右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ: 上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

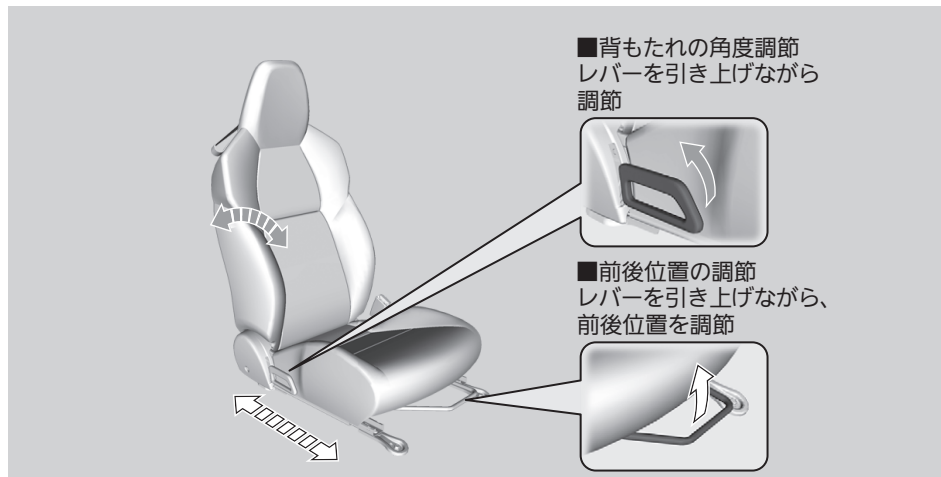
シートの調節

シート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■シートの動かし方



⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下にもものを置かない。

ものがはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

シートに純正以外のシートカバーを取り付けしないでください。

■シートの調節

警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

注意

背もたれと背中の上にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

■シート位置の調節

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。

■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

室内装備品

■グローブボックス

警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。

グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ドリンクホルダー

⚠ 注意

飲みものなどを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲みものがかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■アクセサリースOCKET

シガレットライターは差し込まないでください。発熱するおそれがあります。

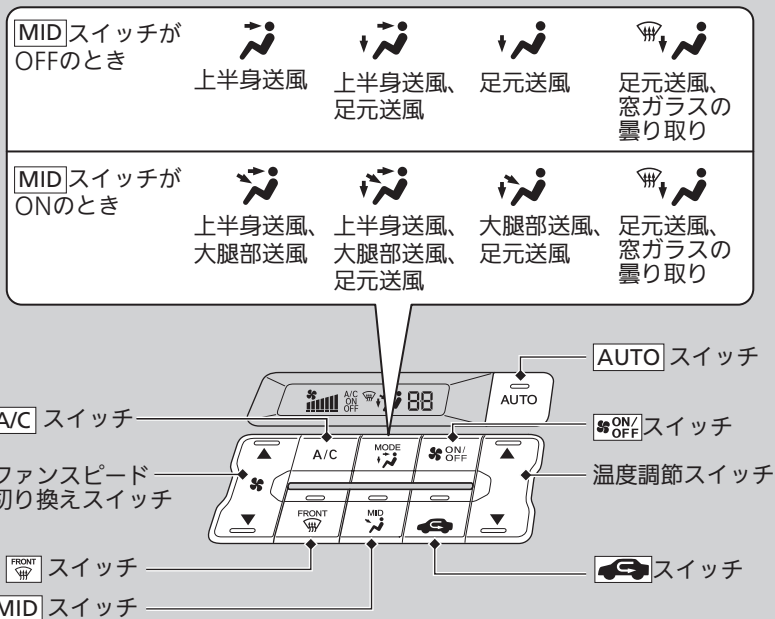
■コンビニフック

アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いものや大きいものをかけないでください。

エアコン

オートエアコンの使いかた



4 オーディオ

オーディオ装置

この章では、ラジオなどの操作方法について記載しています。

取り扱いについて

- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全の妨げとなります。
- 運転中のオーディオ操作は、安全に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うと、オーディオに雑音が入ることがあります。

iPod、iPhone は、米国およびその他の国々で登録された Apple, Inc. の登録商標です。

Bluetooth ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. の所有であり、本田技研工業株式会社のマーク使用は許可を受けています。その他のトレードマークおよびトレードネームは、各所有権者が所有のものです。



HDMI[®], HDMI[®] ロゴ および High Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国々における HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

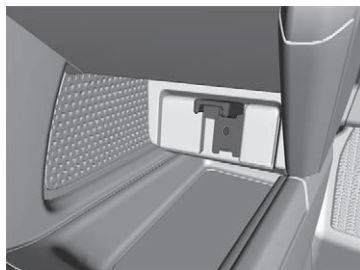
USB/HDMI[®]* ジャック



カバーを開け、iPod や iPhone の USB ケーブルや USB デバイス、スマートフォンの USB 接続コードを USB ジャックに接続します。また、HDMI[®] 接続コードを HDMI[®] ジャックに接続します。

*: タイプやオプションなど、装備が異なります。

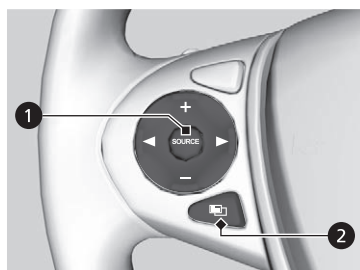
AUX ジャック (外部入力端子)*



市販のポータブルオーディオなどを、AUX ジャックに接続して聴くことができます。

ポータブルオーディオなどのヘッドホン端子から、市販の接続コード (抵抗なし) を使って、AUX ジャックに接続します。

オーディオリモートコントロールスイッチ



運転中にオーディオの操作をするためのスイッチです。

① [SOURCE]スイッチ

再生、視聴することができるソースの順に切り換えることができます。

iPod 対応 USB プレーヤー／FM・AM チューナー 装備車

- ▶ 長押しすると、オーディオモードが OFF になり、もう一度押しと ON になります。

② [≡]スイッチ

センターディスプレイ (スマートフォン連携ナビ対応オーディオ) 装備車

ラジオを聴いているとき

- 「オートセレクト」：AM6 局、FM12 局を自動的に登録します。
- 「チューン」：受信周波数の調整ができます。
- 「スキャン」：受信可能な放送局を約 10 秒間ずつ放送します。

iPod、USB デバイス、Bluetooth オーディオを聴いているとき

- 「早戻し／早送り」：再生しているファイルの早戻し、早送りができます。
- 「プレイモード」：プレイモードを切り換えます。
- 「通常再生」：通常再生モードに切り換えます。

※：タイプやオプションなど、装備が異なります。

iPod 対応 USB プレーヤー／FM・AM チューナー装備車

ラジオを聴いているとき

- 「TUNE」：受信周波数の調整ができます。
- 「SCAN」：受信可能な放送局を約 10 秒間ずつ放送します。
- 「ASEL」：AM6 局、FM12 局を自動的に登録します。

iPod、USB デバイスを聴いているとき

- 「REV/CUE」：再生しているファイルの早戻し、早送りができます。
- 「RAM」または「SHF」：プレイモードを切り換えます。
- 「SCAN」（USB デバイスのみ）：ファイルのスキャン再生を行います。

iPod 対応 USB プレーヤー／FM・AM チューナー*

基本操作

オーディオの操作は、オーディオリモートコントロールスイッチで行います。

■オーディオリモートコントロールスイッチ P.49

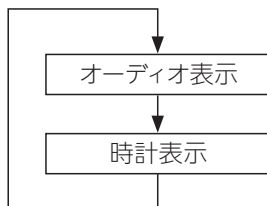
USB デバイスまたは iPod、iPhone が接続されている場合、**[SOURCE]**を押すと USB/iPod を選択できます。

[SOURCE]スイッチを長押しすると、オーディオモードが OFF になり、もう一度押すと ON になります。

画面の切り換え

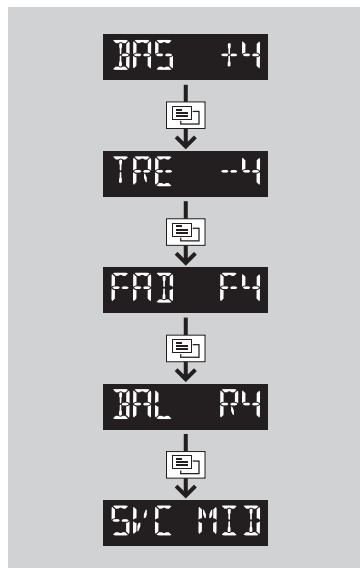


ステアリングのスイッチを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



❖：タイプやオプションなど、装備が異なります。

音質、バランス、車速連動の音量調整



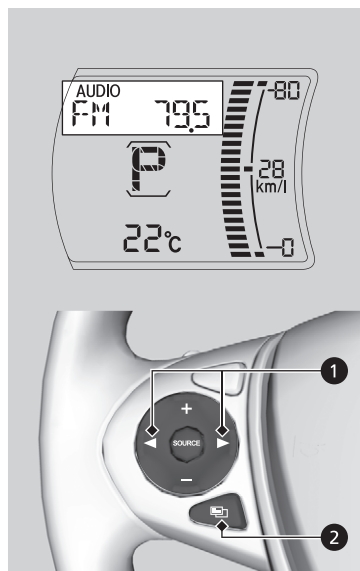
1. [設定] を押し、調整したい項目を選択する。
2. [SOURCE] を押す。
3. ◀/▶、-/+ を押して、調整する。
4. 調整終了後、[SOURCE] を押して決定する。
5. [設定] を押して通常画面に戻る。

以下の設定項目があります。

- 「BAS」：低音
- 「TRE」：高音
- 「FAD」：前後
- 「BAL」：左右
- 「SVC」：車速連動音量

ラジオの使いかた

聴きたいバンド（AM/FM）になるまで[SOURCE]を押し、その後◀/▶で選局します。



① ◀/▶ スイッチ

- ◀または▶を押すたびにプリセットされている放送局を選局します。
- 長押しすると自動的に電波を探し（スキャン）、放送局を受信すると止まります。

② [設定]（設定）スイッチ

放送局を登録（プリセット、オートセレクト）したり、音質の設定をするときに押します。

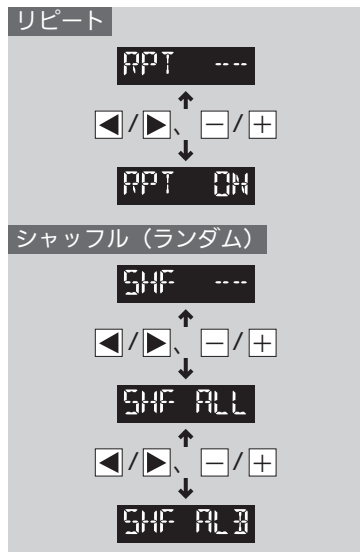
iPod の使いかた

iPod や iPhone の音楽を再生することができます。iPod や iPhone と USB ケーブルで車両の USB ジャックに接続します。その後、iPod モードになるまで **[SOURCE]** を押します。

➡ USB/HDMI[®] ジャック P.48

■プレイモードの選択

再生中の曲を繰り返し聴くとき(リピート)、曲をシャッフル(ランダム) に再生するときのモードを切り換えることができます。



1. **[⌂]** を押し、以下項目を選択する。
 - ▶ リピートの場合 : **「RPT -- --」**
 - ▶ シャッフル (ランダム) の場合 : **「SHF -- --」**
2. **[SOURCE]** を押す。
3. **[◀/▶]**、**[⌂/+]** を押し、以下項目を選択する。
 - ▶ リピートの場合 : **「RPT ON」**
 - ▶ シャッフル (ランダム) の場合 : **「SHF ALL」** または、**「SHF ALB」**
 - ▶ 解除するときは、手順 2. で選択した項目を再度選択します。
4. **[⌂]** を押して通常画面に戻る。

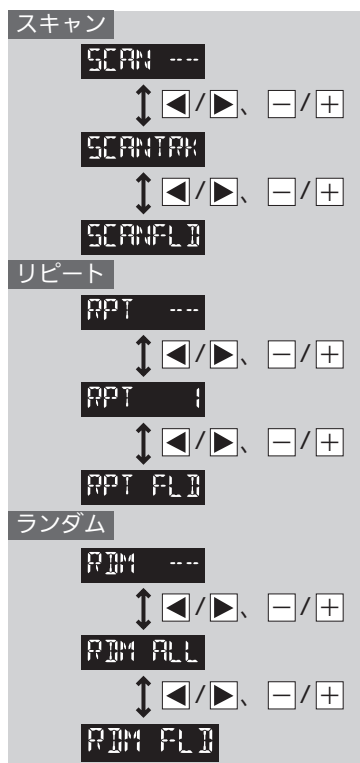
USB デバイスの使いかた

USB フラッシュメモリーデバイスに保存されている MP3 や WMA 音楽ファイルを再生することができます。USB デバイスを USB ジャックに接続し、USB デバイスモードになるまで **[SOURCE]** を押します。

➡ **USB/HDMI ④ ジャック** P.48

■プレイモードの選択

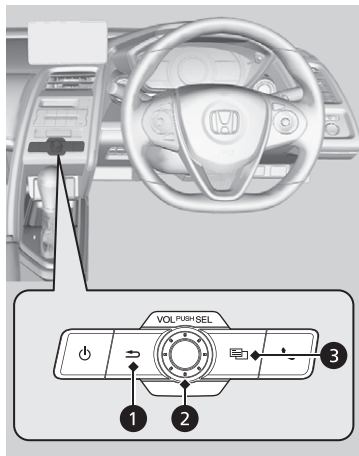
聴きたい曲を探すとき（スキャン）、再生中の曲を繰り返し聴くとき（リピート）、曲をランダムに再生するときのモードを切り換えることができます。



1. **[MENU]** を押し、以下項目を選択する。
 - ▶ スキャンの場合 : 「SCAN -- --」
 - ▶ リピートの場合 : 「RPT -- --」
 - ▶ ランダムの場合 : 「RDM -- --」
2. **[SOURCE]** を押す。
3. **[LEFT]** / **[RIGHT]**、**[MINUS]** / **[PLUS]** を押し、以下項目を選択する。
 - ▶ スキャンの場合 : 「SCANTRK」 または 「SCANFLD」
 - ▶ リピートの場合 : 「RPT 1」 または 「RPT FLD」
 - ▶ ランダムの場合 : 「RDM ALL」 または 「RDM FLD」
 - ▶ 解除するときは、手順 2. で選択した項目を再度選択します。
4. **[MENU]** を押して通常画面に戻る。

センターディスプレイ (スマートフォン連携ナビ対応オーディオ)*

基本操作



① スイッチ

前の画面に戻ったり、操作を解除するときなどに押します。

② スイッチ

項目を選択するときに回し、決定をするときに押します。

③ スイッチ

「設定」画面を開くときに押します。オートセレクトや音質調整、プレイモード、日時調整などの設定が行えます。

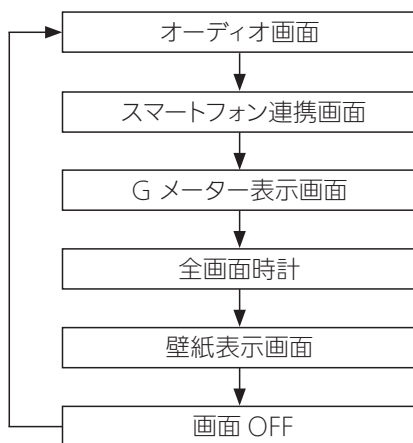
 スイッチを押す操作を、本文中では  と表します。

 スイッチを回す操作を、本文中では  と表します。

画面の切り換え

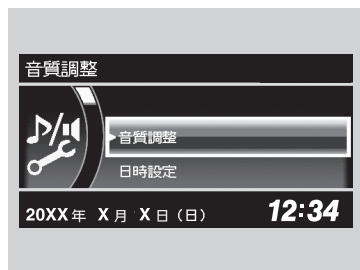


1.  を押す。
2. 表示したい画面を選択する。



*: タイプやオプションなど、装備が異なります。

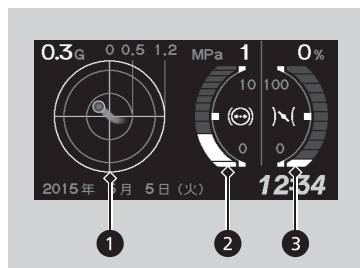
音質、バランス、車速連動の音量調整



1. [Enter]を押す。
2. 「音質調整」を選択する。
3. 調整したい項目を選択する。
4. 方向キーを回して調整する。
5. 調整終了後、[Enter]を押して決定する。
6. [Back]を押して通常画面に戻る。

Gメーター表示画面

Gメーター表示画面に切り換えると、現在の車両の状態を視覚的に表示し、確認することができます。



① Gメーター

車両にかかっている力の向きを表示します。

② ブレーキ圧表示

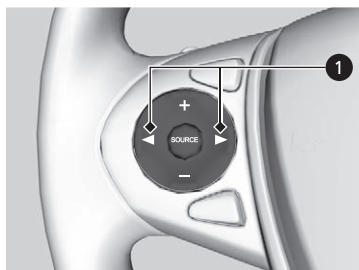
ブレーキペダルの踏み具合に連動して、目盛りが増減します。

③ アクセル開度表示

アクセルペダルの踏み具合に連動して、目盛りが増減します。

ラジオの使いかた

聴きたいバンド（AM/FM）になるまで[SOURCE]を押し、その後◀/▶で選局します。



① ◀/▶スイッチ

◀または▶を押すたびにプリセットされている放送局を選局します。

◀または▶を長押しすると自動的に電波を探し（スキャン）、放送を受信すると止まります。

iPod の使いかた

iPod や iPhone の音楽を再生することができます。iPod や iPhone と USB ケーブルで車両の USB ジャックに接続します。その後、iPod モードになるまで[SOURCE]を押します。

➡USB/HDMI[®] ジャック P.48

■ iPod のルートメニューから曲を選択する



「プレイリスト」「アーティスト」「アルバム」「曲」から聴きたい曲を選択することができます。

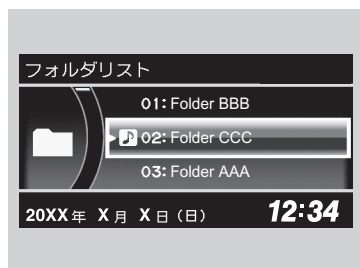
1. ⌂を押す。
2. お好みの項目を選択する。
3. ファイルを選択する。

USB デバイスの使いかた

USB フラッシュメモリーデバイスに保存されている MP3 や WMA 音楽ファイルを再生することができます。USB デバイスを USB ジャックに接続し、USB デバイスモードになるまで **[SOURCE]** を押します。

➡ **USB/HDMI[®] ジャック** P.48

■フォルダリストによる選曲



1. **[FOLDER]** を押す。
2. 聴きたいフォルダを選択する。
3. 聴きたい曲を選択する。

Bluetooth オーディオの使いかた

携帯電話の中の音楽ファイルを、Bluetooth 機能を使って再生することができます。携帯電話を Bluetooth 接続し、Bluetooth オーディオモードになるまで **[SOURCE]** を押します。

➡ **ハンズフリーテレフォン^{*}** P.60

ビデオ機器などの接続

HDMI[®] ジャックにビデオ機器やスマートフォンなどを接続することができます。ビデオ機器やスマートフォンなどを HDMI[®] 接続コードで HDMI[®] ジャックに接続します。その後、HDMI モードになるまで **[SOURCE]** を押します。

➡ **USB/HDMI[®] ジャック** P.48

ビデオをご覧になるときは、停車禁止区域以外の安全な場所に停車してください。

映像は安全上の配慮から、停車してパーキングブレーキをかけているときだけ見ることができます。停車していてもパーキングブレーキをかけていないときなどは、映像は映らず、音声だけが聞こえます。

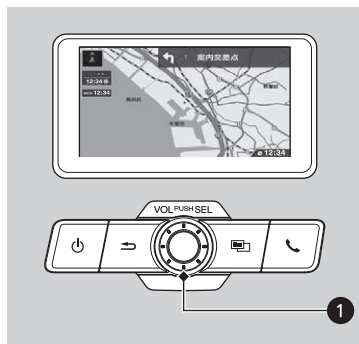
スマートフォン連携*

インターナビが提供するナビアプリ、internavi POCKET をインストールしたスマートフォンと接続すると、オーディオ画面に表示し操作することができます。

➡USB/HDMI[®] ジャック P.48

➡スマートフォンを接続する P.58

internavi POCKET の使いかた

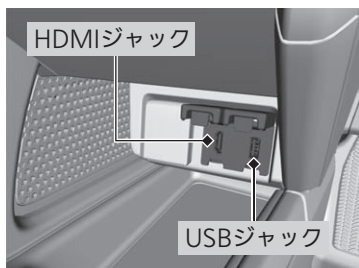


① VOL/PUSH/SEL スイッチ

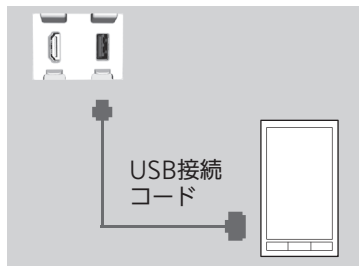
- 地図表示中に右に回すと拡大し、左に回すと縮小します。
- 「メニュー」画面を表示するときに押します。

internavi POCKET のインストールや操作方法、使用できるスマートフォンの機種、OS のバージョン等についてはインターナビのホームページでご確認ください。
<http://www.honda.co.jp/internavi/pocket/>

■スマートフォンを接続する



1. カバーを開ける。



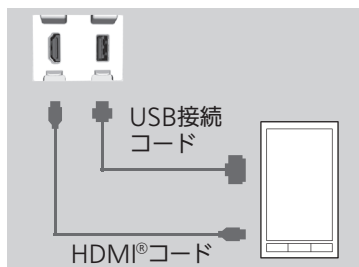
Android 端末／iPhone

2. スマートフォンまたは iPhone の USB 接続コードを USB ジャックに接続する。

▶「USB 接続」を選択します。

➡接続方式の設定 P.59

※：タイプやオプションなど、装備が異なります。



Android 端末 (HDMI 端子あり)

2. スマートフォンの USB 接続コードを USB ジャックに接続し、HDMI® 接続コードを HDMI® ジャックに接続する。

▶「USB と HDMI 接続」を選択します。

➡接続方式の設定 P.59

スマートフォンやアプリの ON/OFF は、スマートフォン側で操作してください。

■接続方式の設定



スマートフォンの接続方法を設定します。

1. [設定] を押す。
2. 「スマートフォン連携設定」を選択する。
3. 「接続方式設定」を選択し、[決定] を押して決定する。
4. 接続方式を選択し、[決定] を押して決定する。

■internavi POCKET を表示する



1. スマートフォンで internavi POCKET を起動し、目的地を設定する。
▶ 目的地設定などは、インターナビのホームページ (<http://www.honda.co.jp/internavi/pocket/>) をご覧ください。
2. スマートフォンを接続する。

➡スマートフォンを接続する P.58

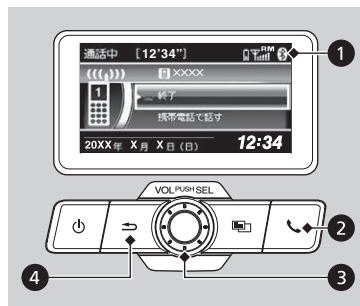
■internavi POCKET を終了する

スマートフォンで internavi POCKET を終了します。

ハンズフリーテレホン*

基本操作

お手持ちの携帯電話を Bluetooth 接続すると、携帯電話を操作することなく電話の発信着信ができます。



① Bluetooth インジケーター

携帯電話を Bluetooth 接続すると画面に Bluetooth インジケーターが表示されます。

② スイッチ

電話に出たり、電話を切るときに押します。
「電話設定」画面を表示するときに押します。

③ スイッチ

項目を選択するときに回し、決定するときに押します。

④ スイッチ

前の画面に戻ったり、操作を解除するときなどに押します。

使用できる携帯電話やスマートフォンの機種についてはインターナビのホームページでご確認ください。
<http://www.honda.co.jp/internavi/>

■携帯電話を登録する

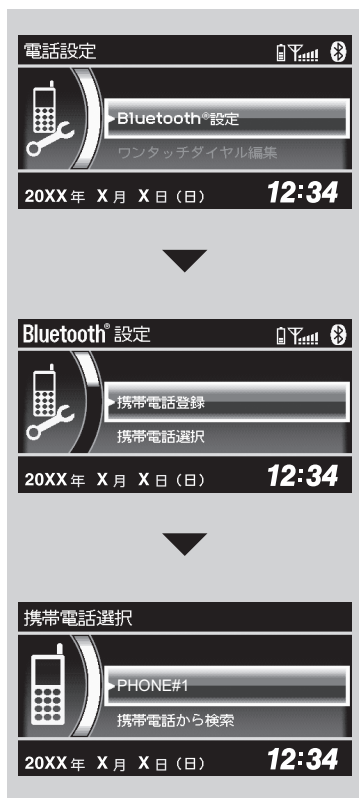
■初めて登録するとき



1.  を押す。
2. 「はい」を選択する。
▶ 携帯電話をサーチ状態にしておいてください。
3.  を押す。
4. 携帯電話の機種名が表示されたら、選択して  を押す。
▶ 表示されない場合、「携帯電話から検索」を選択して携帯電話から検索してください。
5. 画面に表示されたパスキーを携帯電話に入力する。

*: タイプやオプションなど、装備が異なります。

■別の携帯電話を登録する

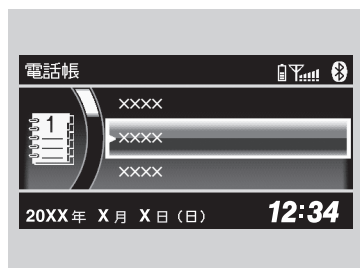


1. を押す。
2. 「電話設定」を選択する。
3. 「Bluetooth 設定」を選択する。
4. 「携帯電話登録」を選択する。
▶ 携帯電話をサーチ状態にしておいてください。
5. を押す。
6. 携帯電話が表示されたら、選択してを押す。
▶ 表示されない場合、「携帯電話から検索」を選択して携帯電話から検索してください。
7. 画面に表示されたパスキーを携帯電話に入力する。

■電話をかける

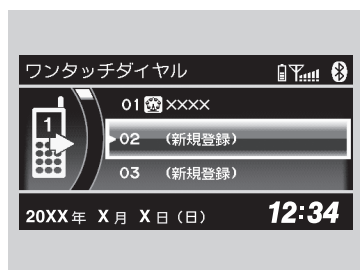
電話帳、発信着信履歴、ワンタッチダイヤルから電話をかけることができます。

■電話帳からかける



1. を押す。
2. 「電話帳」を選択する。
3. 名前の頭文字 (50 音順) を選択する。
4. 名前を選択する。
5. 電話番号を選択し、を押して決定する。

■ワンタッチダイヤルからかける

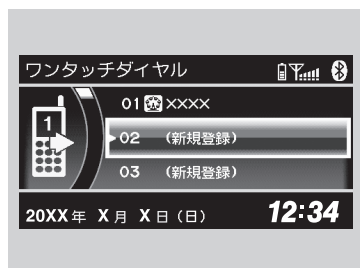


1. を押す。
2. 「ワンタッチダイヤル」を選択する。
3. 電話をかける相手を選択し、を押して決定する。

■ワンタッチダイヤル

■ワンタッチダイヤルの登録

ワンタッチダイヤルを最大 15 件まで登録できます。



1. を押す。
2. 「ワンタッチダイヤル」を選択する。
3. 「新規登録」を選択する。
4. 登録方法を選択する。
5. 項目を選択し、を押して決定する。

この章では、運転操作、給油、アクセサリーなどについて記載しています。

運転の前に

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ ロールトップに雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
 - フロントフードは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にフロントフードが開くと、視界がさえぎられて危険です。
 - タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
- タイヤの点検と整備 P.97**
- 車の周囲に子供はいないか？
 - 車の周囲に障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

このとき、沸騰した湯は使わないでください。ロールトップクロスにかかると、ロールトップクロスを傷める場合があります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
 - ▶ 車に合ったフロアマットをお使いください。
- シートの足元にものを置いていないか？
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
- シートの調節 P.45
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
- ミラー類の調節 P.44
- ハンドルの調節 P.43
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
- シートベルトの着用 P.8
- ドアが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドアが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
- 車内での施錠／解錠 P.36
- ロールトップが確実に固定されているか？
 - ▶ 走行前にロールトップが正しく固定されていることを確認します。
- ロールトップの取り付け P.39
- エンジンを始動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
- 警告灯 P.22

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転操作

エンジンの始動

共通操作

1. パーキングブレーキをかける。

無段変速オートマチック車

2. セレクトレバーが[P]であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。
▶ [N]でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される[P]で行ってください。

マニュアル車

2. チェンジレバーが[N]（ニュートラル）であることを確認し、右足でブレーキペダル、左足でクラッチペダルを踏む。
▶ 思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっばいに踏み込まないとスターターが回らないようになっています。

共通操作

3. アクセルペダルを踏まずに、[ENGINE START/STOP]を押す。

⚠ 警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコンなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。

■エンジンの停止

1. セレクトレバーを[P]にする（無段変速オートマチック車）。
2. [ENGINE START/STOP]を押す。

■発進時の操作

無段変速オートマチック車

⚠ 注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。
車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバー[N]にしないでください。

エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

⚠ 注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。
滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

■その他の注意点

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどしてEPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

下記のような場合には、フロントバンパーなどを損傷するおそれがあります。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過

無段変速オートマチック車

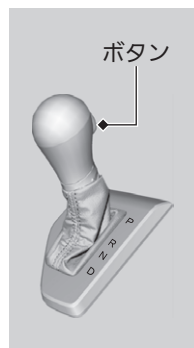
上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

シフト操作

無段変速オートマチック車

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。



[P] : パーキング

駐車またはエンジンの始動

[R] : リバース

車を後退

[N] : ニュートラル

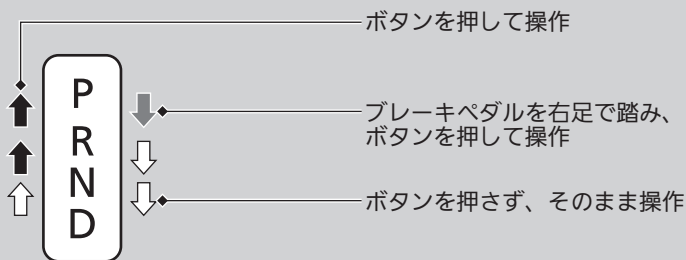
アイドリング状態

[D] : ドライブ

- 通常走行
- 7速マニュアルシフトモードにするとき

[R]のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが[R]に入っていることを知らせます。

■セレクトレバーの操作



アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

■ 7 速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときも、使用してください。

■セレクトポジションが[D]で、SPORT モードスイッチが OFF のとき

一時的に7速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。

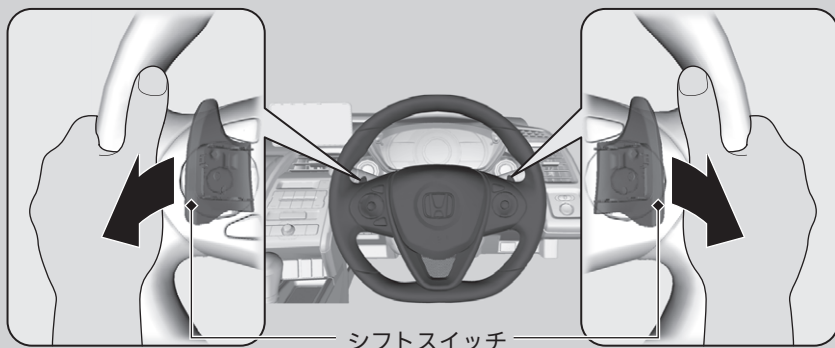
一定速走行や加速の状態になると、7速マニュアルシフトモードは自動的に解除されます。

■セレクトポジションが[D]で、SPORT モードスイッチが ON のとき

7速マニュアルシフトモードとなり、[M]表示灯とシフトインジケーターが点灯します。シフトスイッチを操作せずに車速が下がると、順次低速段に自動的にシフトダウンし、停止すると1速にシフトダウンします。

モードを解除する場合は、SPORT モードスイッチを押すか[+]のシフトスイッチ（右側）を数秒間引き続けてください。7速マニュアルシフトモードが解除され、[M]表示灯とシフトインジケーターが消灯します。

■ 7 速マニュアルシフトモードの操作

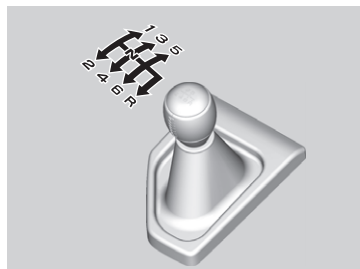


ーのシフトスイッチ
(左側)を引くと
シフトダウン
(低速ギヤに変速)

＋のシフトスイッチ
(右側)を引くと
シフトアップ
(高速ギヤに変速)

シフト操作

マニュアル車



変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。

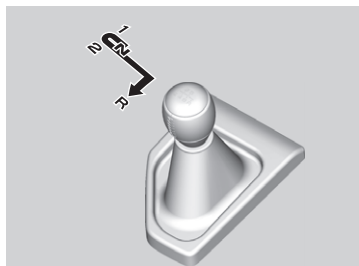
アドバイス

車が完全に止まらないうちは[R]に入れないでください。トランスミッション破損の原因となります。

停車しても[R]に入らないときは、一度[N]（ニュートラル）へ戻し、[1]、[2]側へ倒してから[R]に入れてください。

■ **R**に入らないとき

一度 **N**（ニュートラル）へ戻し、**1**、**2**側へ倒してから**R**に入れても入らない場合は下記の操作をしてください。

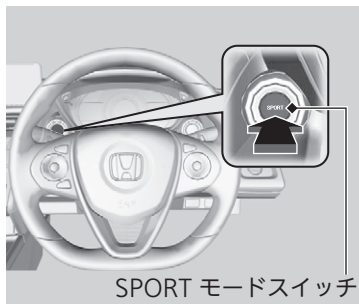


1. パーキングブレーキをかけてパワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにする。
2. クラッチペダルを踏み込んで、チェンジレバーを**R**にする。
3. クラッチペダルを踏み込んだまま、エンジンを始動する。

この操作を毎回しないと**R**に入らない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

無段変速オートマチック車

SPORT モードスイッチ

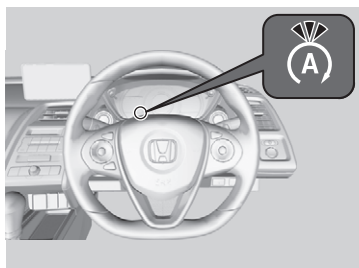


高い応答性能により、力強く伸びのある走行を可能にしているモードです。山間部などの坂道や郊外での走行に適しています。

■ターボブースト表示 P.31

無段変速オートマチック車

アイドリングストップシステム



燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車する直前もしくは停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。停車する直前もしくは停車時にブレーキペダルを踏んでいるとアイドリングストップします。ブレーキペダルを離すとエンジンが自動的に再始動します。

アイドリングストップ中は、表示灯が点灯します。

表示灯が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。

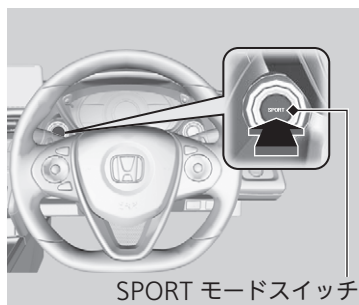
指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。

交換時は指定されたバッテリーを使用してください。

詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

■仕様 P.127

■アイドリングストップシステムの ON/OFF



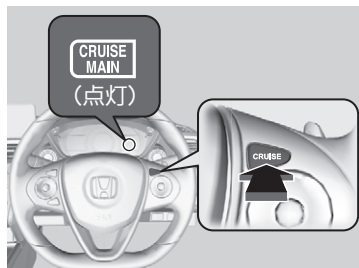
アイドリングストップシステムを OFF にするには、SPORT モードスイッチを押してください。SPORT モードになり、アイドリングストップシステムが OFF になります。

▶ アンビエントメーターが赤色になります。

アイドリングストップ中に SPORT モードスイッチを押すと、エンジンが再始動します。

クルーズコントロール*

高速道路のような加速／減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。



ハンドルの **CRUISE** スwitchを押すとメーターの CRUISE MAIN が点灯し、クルーズコントロールが ON になります。

■使用できるシフトポジション：

D（無段変速オートマチック車）

■使用できる車速：

約 30 ～ 100km/h の範囲の希望値

警告

下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。

道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

- **混んでいて、車間距離が十分にとれない道路**

道路状況に合った速度で走行できません。

- **急な下り坂のある道路**

エンジンブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。

- **凍結や積雪などで滑りやすい道路**

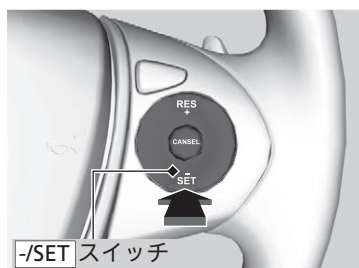
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

マニュアル車

エンジン回転数が下がったときは、シフトダウンをしてください。

クラッチペダルを踏んでから 5 秒以内にシフトチェンジすれば、設定した車速を維持できます。

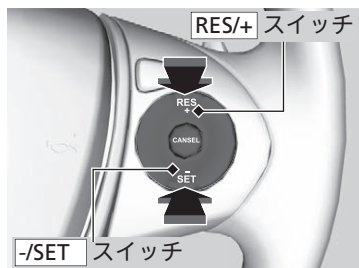
■車速をセットするには



希望の車速になったらペダルから足を離し、**[-/SET]**を押します。

[-/SET]を離すと、離れたときの車速にセットされ自動定速走行になります。同時に、CRUISE CONTROL 表示灯が点灯します。

■車速を調節するには



手元の**RES/+**と**[-/SET]**の操作で車速を上げ／下げすることができます。

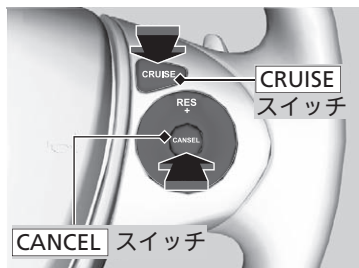
RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離れたときの車速に固定

[-/SET] スイッチ

- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離れたときの車速に固定

■解除するには



次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、CRUISE CONTROL 表示灯が消灯します。

- **CANCEL** を押す
- **CRUISE** を押す
- ブレーキペダルを踏む

自動定速走行を解除したあとも、30km/h 以上の車速で走行中に**RES/+**を押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。

以下の場合、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 車速が 25km/h 以下になったとき

マニュアル車

- 5 秒間以上クラッチペダルを踏み続けたとき
- チェンジレバーを **N**（ニュートラル）にしたとき

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）機能 ■P.75

■ TCS（トラクションコントロールシステム）機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

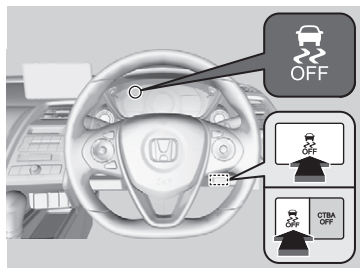
➡電子制御ブレーキアシスト P.75

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

■ VSA の作動と警告灯

TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

■ VSA の ON と OFF

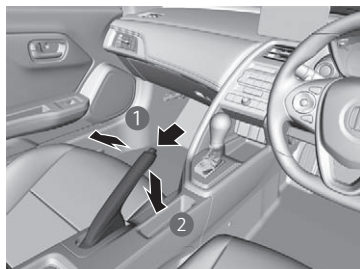


VSA を停止 (OFF) 状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。

ブレーキ操作

■ パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキレバーにより操作します。



■ パーキングブレーキをかける

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。

■ パーキングブレーキを解除する

1. レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押す。
2. ボタンを押したまま、レバーを下まで完全に下ろす。

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

ABS (アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS (アンチロックブレーキシステム) とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

アドバイス

指定された種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、指定された種類、サイズのタイヤを指定空気圧で使用してください。

電子制御ブレーキアシスト

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

■ VSA (ビークルスタビリティアシスト) P.73

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。



① 急ブレーキをかける



① 制動灯点灯

② 非常点滅表示灯が高速で点滅

② メーター内の方向指示器表示灯が左右同時に高速で点滅

エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

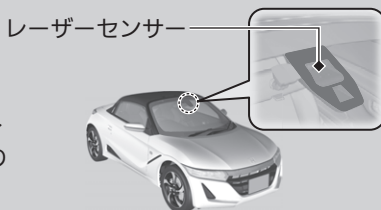
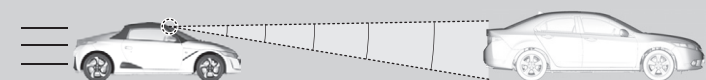
エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

シティブレーキアクティブシステム*

低速走行時に、自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突の衝撃を軽減する装置です。なお、セレクトレバーまたはチェンジレバーが[R]のときは、作動しません。

■システム作動条件

自車の车速が約 5km/h ~ 30km/h のとき、レーザーセンサーが前方の車両を検知



フロントガラス上部に、シティブレーキアクティブシステムのレーザーセンサーを装備

自車との速度差が約 5km/h ~ 30km/h の車両に対して衝突のおそれがあるときに、システムが作動します。

⚠ 警告

シティブレーキアクティブシステムは、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。

正しく運転しないと衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

❖: タイプやオプションなど、装備が異なります。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときは取り除く
- ガラスを拭くときは、レーザーセンサーに衝撃を与えない
- センサーを取り外さない

マニュアル車

システム作動により停車したときは、エンジンが停止することがあります。

エンジンが停止したときは、通常操作でエンジンを再始動してください。

➡ エンジンの始動 P.65

次のような場合には、車両を正しく検知できず、システムが作動しない場合があります。

- 前方の車両が斜め、横向き、対向の場合で、車両を検知しにくいとき
- 前方の車両との車間距離が極端に短いとき
- 自車と前方の車両との相対速度差が大きいとき
- 自車の前方に別の車両が割り込み、急な減速を行ったとき
- 急加速を行い、前方の車両に接近しているとき
- 自車の前方に対向車が急に飛び出したとき
- 自車が対向車の前に急に飛び出したとき
- 交差点などで、自車の前方に車が飛び出したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- カーブなどの道路状況のとき
- 前方車両が著しく汚れているなど、レーザーの反射が弱く検知しにくいとき
- 衝突を回避しようとして運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- キャリアカーなど特殊な形状の車、自転車、二輪車などや、物の材質、形状、大きさなどにより、レーザーセンサーが検知しにくいとき
- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

以下の場合、システムが自動的に停止し、**[CTBA]**表示灯が点滅することがあります。

- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度が高くなったとき
- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき
- フロントフードに雪などが積もっているとき

安全な場所に車を止めて、以下の対処を行ってください。

- レーザーセンサー付近の温度が高くなっているときは、エアコンを使用して車内の温度を下げる
- レーザーセンサー付近の汚れなどの遮蔽物やフロントフード上の雪などがあるときは取り除く

システムが作動できる状態になると、システムは自動復帰します。

以下の場合、システムを OFF にしてください。

- 車両の整備や検査の際に、シャーシダイナモやフリーローラーを使用する場合
- 草の生い茂っているオフロードなどの悪路や、木の葉がかかるような山道などを走行する場合

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

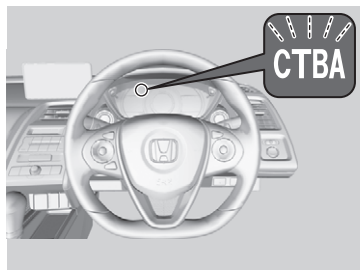
- レーザーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントガラス周辺の修理を行うとき

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。タイヤは必ず指定されたサイズ、種類、銘柄、および磨耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や磨耗度合いの異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

次のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。

- フロントコンパートメントや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤが指定空気圧に調節されていないとき

■システムの作動のしかた



衝突のおそれがある状態になると、ブザー（ピピピ）が鳴り、**CTBA**表示灯が点滅し、ブレーキが強くなります。

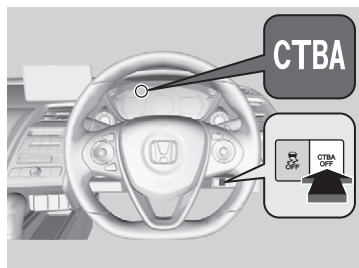
システムが作動し、停車した後に、自動ブレーキは解除されます。

安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

また、車が停止してから、**CTBA**表示灯が 10 数秒間点灯します。

なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

■システムの ON と OFF



[CTBA OFF]を「ピッ」とブザーが鳴るまで押して、システムの ON と OFF を切り換えます。

シティブレーキアクティブシステムが OFF に切り替わったとき、[CTBA]表示灯が点灯します。

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

■衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、システムが作動することがあります。周囲の状況に注意して、走行してください。

- 追い越しや交差点などで前方の車両や対向車に接近して走行するとき
- 低いゲートや狭いゲートなどを規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどに接近して走行するとき
- 駐車時等、停止している車両や壁に接近するとき

■レーザーセンサーについて

⚠ 警告

レーザーセンサーにより目を損傷するおそれがあるため、次のことを守る。

- センサーを取り外さない。
- センサーから 100mm 以内の距離で、拡大鏡、顕微鏡、対物レンズなど拡大機能がある光学機器を使用して、センサーをのぞきこまない。

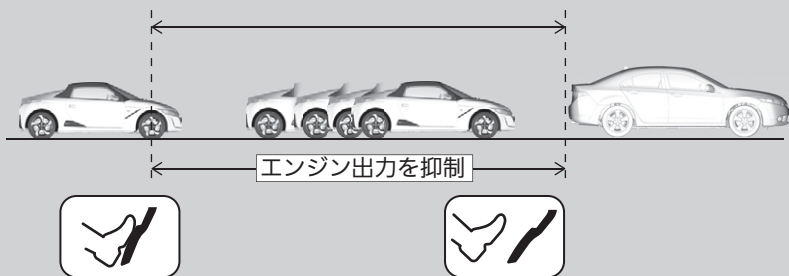
■誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止して衝突時の衝撃を軽減する機能です。

なお、急な坂道やセレクトレバーが[P]、[R]、[N]のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー（ピピピ）が鳴り、[CTBA] 表示灯が点滅します。



アクセルペダルを踏む
アクセルペダルの踏み込み量が
少ないときは作動しません。

アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキ
ペダルを踏んでください。

⚠ 警告

あらゆる状況でアクセルペダルの踏み過ぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

正しく運転しないと追突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。その時は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、シティブレーキアクティブシステムを OFF にして遮断機を押しつけてください。

誤発進抑制機能は、シティブレーキアクティブシステムの機能のひとつです。そのため、シティブレーキアクティブシステムを OFF にしているときは、この機能は作動しません。また、機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーザーセンサーの取り扱いなども、シティブレーキアクティブシステムと同じです。

■機能解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ステアリングを操作して、衝突を避けようとしたとき

駐停車操作

坂道に駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。

⚠ 注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

駐車時はエンジンを止める。

万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で[P] [N]以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。

- ▶ 無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。トランスミッション破損の原因となります。

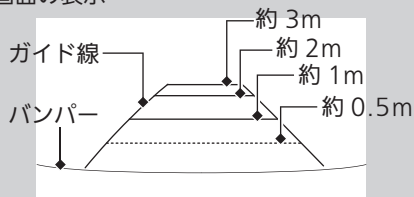
リヤカメラシステム*

リヤカメラシステムは、センターディスプレイの画面に、車両後方の映像を表示させるシステムです。

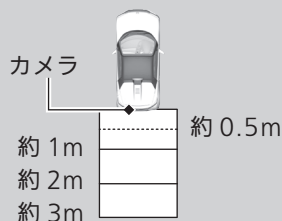
セレクトレバーまたはチェンジレバーを[R]に入れると自動的に画面が切り換わります。

■画面に表示される映像の範囲

画面の表示



実際の状況



⚠ 注意

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転する。

画面を見るときは、必要最小限にする。

画面に表示される映像の範囲には限度があるため、画面だけを見て後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

給油

無鉛レギュラーガソリン

レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)

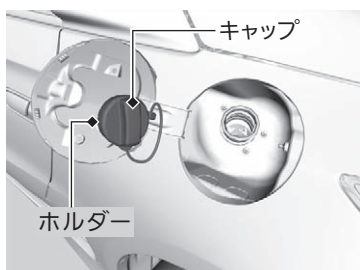
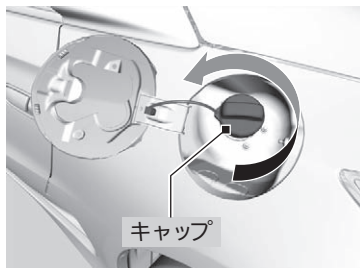
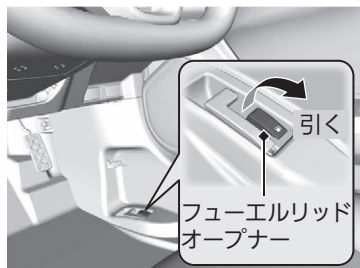
アドバイス

指定燃料以外の燃料（有鉛ガソリン、粗悪ガソリン、軽油、灯油、高濃度アルコール含有燃料）を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

❖: タイプやオプションなど、装備が異なります。

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席足元のフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。
4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。
5. キャップはホルダーにかける。
6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
 - ▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
7. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
 - ▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。

気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。

閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

ターボ車について

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。

ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない
- エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る

エンジンオイルメンテナンス表示灯

パワーモードを ON モードにしたときに、リセットしてからの走行距離に応じて、エンジンオイルの交換時期の目安を表示灯の点滅または点灯でお知らせします。

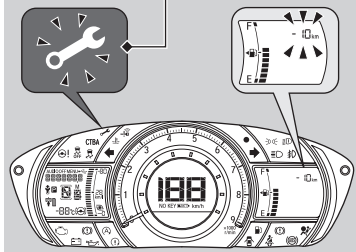
リセットしてからの走行距離	表示灯の状態
4,500km 未満	数秒点灯したあと、消灯
4,500km 以上 5,000km 未満	数秒点灯したあと、約 10 秒間 点滅してから消灯
5,000km 以上	点灯 ▶ すみやかにエンジンオイルを交換してください。 エンジンオイルを交換したあとは、表示灯をリセットしてください。

■表示灯のリセット

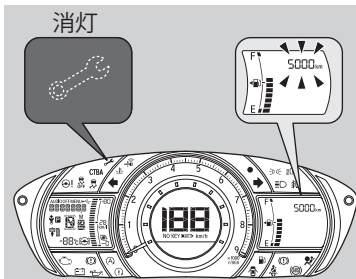


1. 車を安全な場所に停車する。
2. ライトスイッチを OFF にする。
3. セレクト／リセットスイッチを押したまま、パワーモードを ON モードにする。

エンジンオイル メンテナンス表示灯



消灯



4. そのままセレクト／リセットスイッチを、エンジンオイルメンテナンス表示灯が点滅に切り換わるまでしばらく押し続ける。

▶ 同時にインフォメーションディスプレイの表示がエンジンオイルの交換時期までの距離表示に切り換わり、点滅します。

5. エンジンオイルメンテナンス表示灯と走行距離表示が点滅を始めたら、セレクト／リセットスイッチから手を離す。

6. エンジンオイルメンテナンス表示灯が消灯するまで、再度セレクト／リセットスイッチを押し続ける。

▶ 走行距離表示が 5000 になります。

7. セレクト／リセットスイッチから手を離す。

アクセサリと改造

アクセサリ

アクセサリを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリをフロントガラスに取り付けていないか？
▶ アクセサリの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。

車の改造

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりします。
- Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 車の改造はしないでください。不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故を起こす場合があります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点（音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客様自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

警告

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

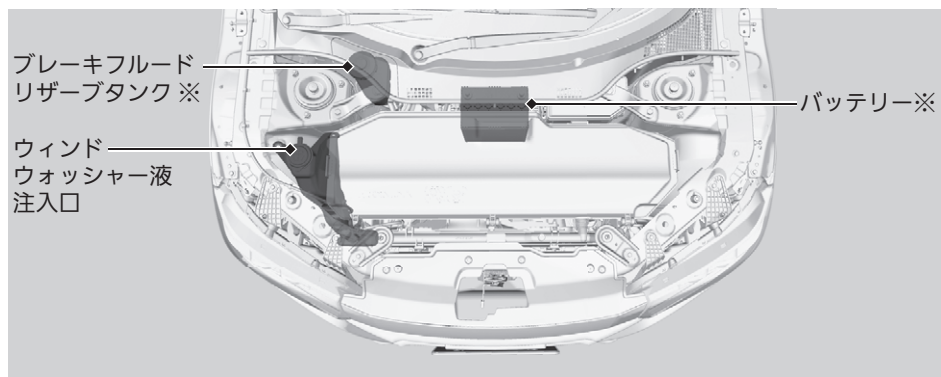
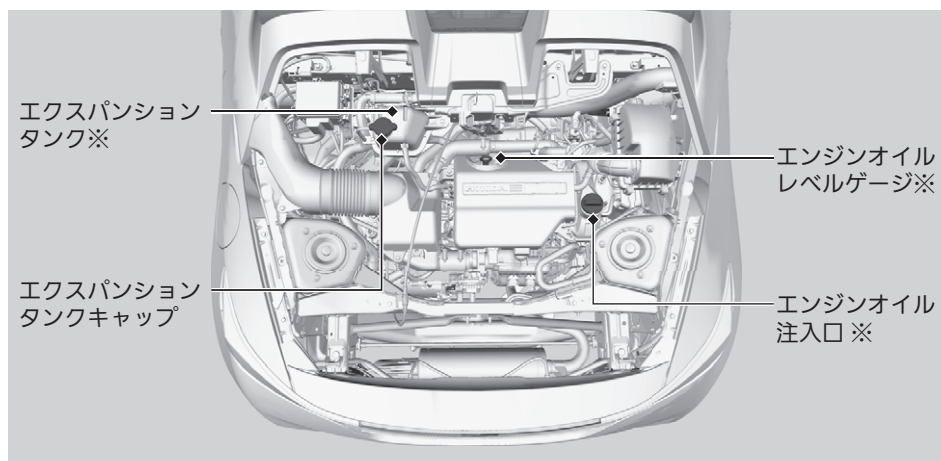
- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける

■車についての安全事項

- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する
 - ▶ エンジンをかけるときは必ず十分な換気を行ってください。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する
 - ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
 - ▶ **アイドリングストップシステム装備車**
アイドリングストップ中は、リヤフードまたはフロントフードを開けないでください。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する
 - ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンルーム／フロントコンパートメント内のメンテナンス

エンジンルーム／フロントコンパートメント内のメンテナンス項目



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

リヤフードを開ける



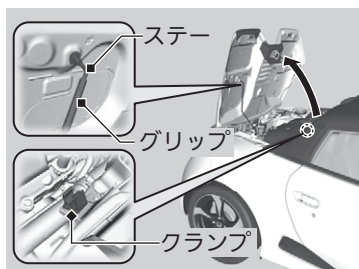
1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、リヤフード解除ノブを引く。

アドバイス

リヤフードを閉めたときは、リヤフードが確実にロックされていることを確認してください。



3. 運転席側から、リヤフード中央のレバーを手前に引いてロック機構を解除し、リヤフードを開ける。



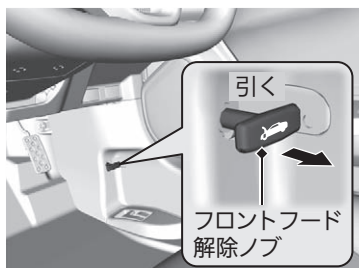
4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをリヤフードにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからリヤフードを静かに下げて、約 30cm の高さから手を離します。

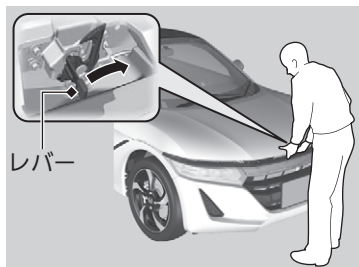
⚠ 注意

リヤフードを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

フロントフード（ボンネット）を開ける



1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、フロントフード解除ノブを引く。



3. フロントフード中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、フロントフードを開ける。

⚠ 注意

フロントフードを開めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、フロントフードを開けないでください。フロントフードがワイパーに当たり、フロントフードやワイパーが損傷することがあります。

推奨エンジンオイル



推奨エンジンオイル：

Honda 純正エンジンオイル

■ Honda 純正エンジンオイル P.128

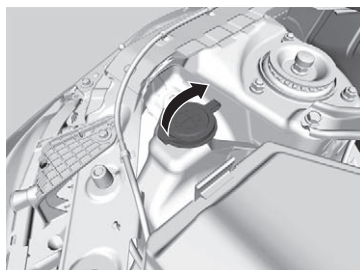
API SM 級または SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION (エーピーアイサーティフィケーション) マークの入ったエンジンオイル



市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

※：最も省燃費性に優れたオイルです。Honda 販売店でお求めください。

ウィンドウォッシャー液の補給



ウォッシャー液の量は、ウォッシャー液キャップを外して確認します。

減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

電球の交換

ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

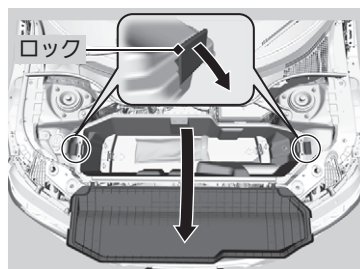
ロービームヘッドライト: LED

ハイビームヘッドライト: 12V - 60W

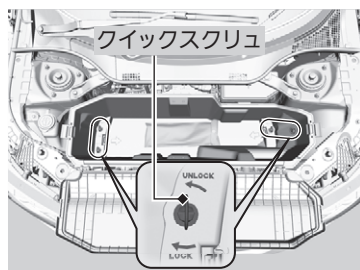
■ロービームヘッドライト

ロービームヘッドライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

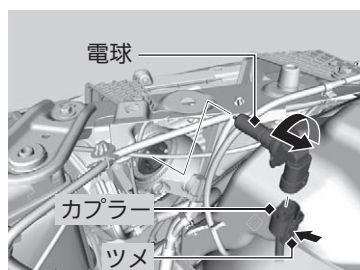
■ハイビームヘッドライト



1. 左右のロックを解除してユーティリティボックスを開ける。



2. クイックスクリューを左に 90 度回してユーティリティボックスを取り外す。



3. カプラーを外す。
4. 古い電球を左に回して抜き取る。
5. 新しい電球を右に回して固定する。
6. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。
7. クイックスクリューを右に 90 度回してユーティリティボックスを固定する。
8. ユーティリティボックスのフタを閉じ、左右のロックで固定する。

アドバイス

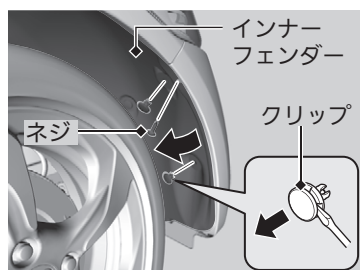
ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

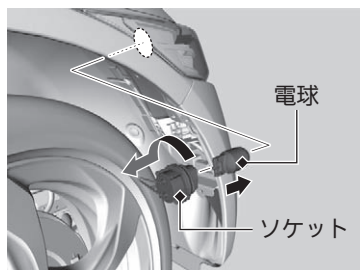
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

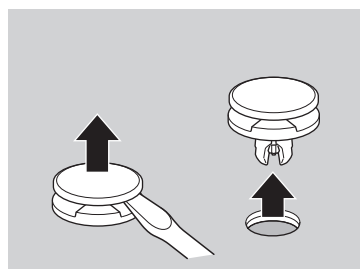
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯：12V－21W（橙色）



1. 交換する側と反対側にハンドルをいっぱい切る。
2. ネジとクリップを外し、インナーフェンダーをめくる。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。



クリップを外すときは、クリップの図の位置にマイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。
クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。

車幅灯電球

車幅灯はLEDを使用しています。電球の点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

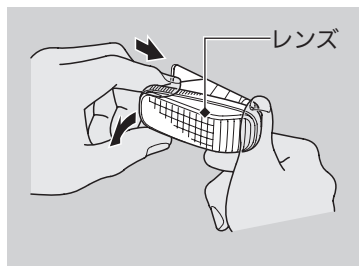
側面方向指示器／側面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

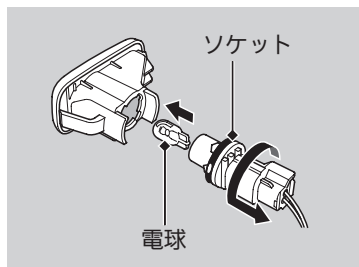
側面方向指示器／側面非常点滅表示灯：

オレンジレンズ装備車 12V－5W

クリアレンズ装備車 12V－5W(橙色)



1. ランプ本体を後方にずらして取り外す。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

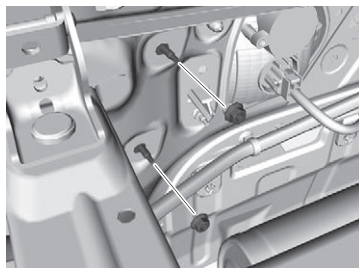
制動灯／尾灯電球

制動灯／尾灯は LED を使用しています。電球の点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

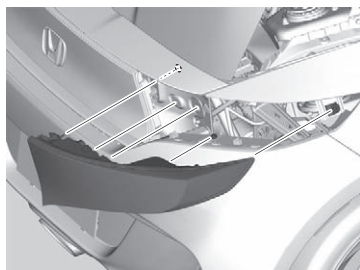
後面方向指示器／後面非常点滅表示灯

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

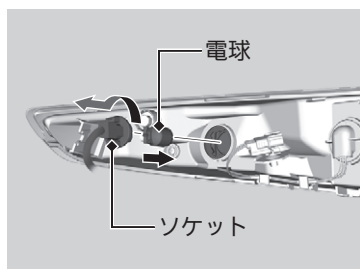
後面方向指示器／後面非常点滅表示灯：12V－21W(橙色)



1. 付属のスパナを使い、ナットを外す。



2. ランプ本体を後方に引いて取り外す。



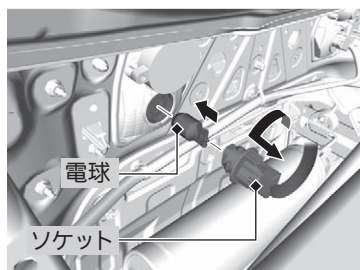
3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

4. 新しい電球を差し込む。

後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯: 12V - 21W



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

2. 新しい電球を差し込む。

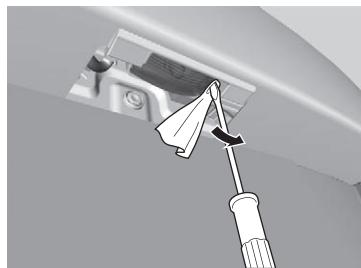
ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプは LED を使用しています。電球の点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

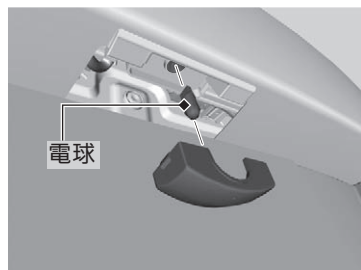
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯: 12V - 5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、レンズを外す。



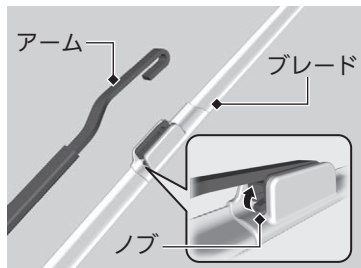
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検と整備

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

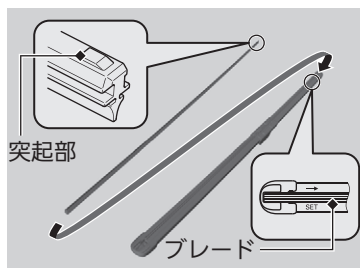
ワイパーブレードラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。
2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。

- ▶ ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でフロントフードを開けたりワイパーを作動させたりすると、フロントフードとワイパーアームを損傷します。

ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

タイヤの点検と整備

タイヤの点検

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがいないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

⚠ 警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
 - ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
 - ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
 - ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
 - ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお奨めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

⚠ 警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

前後輪で、タイヤサイズが異なり、回転方向が指定されています。

この車はタイヤローテーションできません。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

■スノータイヤ

- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

■タイヤチェーン

タイヤチェーンは使用できません。

タイヤチェーンを使用すると、ボディやサスペンション、ブレーキ配管などを破損するおそれがあります。

清掃

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。

故障や車両火災の原因となるおそれがあります。

万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

■ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉（コンパウンド）入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

■ロールトップのお手入れ

ロールトップのお手入れは、車体に取り付けた状態で行ってください。

水を柔らかい布に含ませ汚れを落としてください。

汚れがひどい場合は、柔らかい布に中性洗剤を含ませ汚れを落としてください。

ロールトップのお手入れは、以下のことに注意してください。

- 自動洗車機やコイン洗車機を絶対に使用しない
 - ▶ ロールトップを傷めるおそれがあります。
- 長期間ロールトップをたたんで収納したままにしない
 - ▶ しわができる原因になります。

水は必ずロールトップの上方からかけるようにしてください。

ウィンドーとロールトップの合わせ目付近には水をかけないでください。

ロールトップが濡れているときは、必ず水気を拭き取って乾燥させてから開けてください。濡れたまま収納すると、車内への水の浸入、ロールトップクロスの劣化、縮みやカビの原因となります。

屋外で保管する際は、台風や大雨などで車内への水の浸入や、ロールトップ保護のため、ボディーカバーをかけるようにしてください。

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた、使用上の注意、発炎時間、有効期限

⚠ 警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

⚠ 注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。

単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を止め、パーキングブレーキをかける。

無段変速オートマチック車

2. セレクトレバーを[P]に入れる。

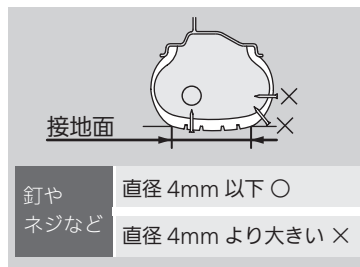
マニュアル車

2. チェンジレバーを[R]に入れる。

共通

3. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。
Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

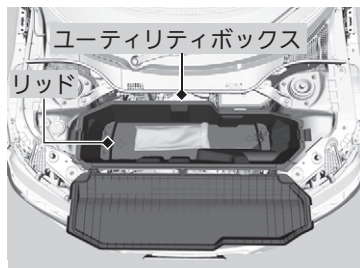
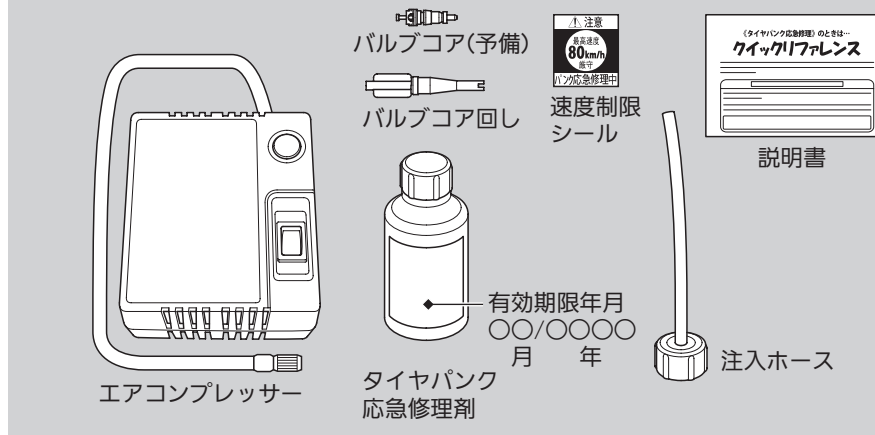


- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのと
き
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき
- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

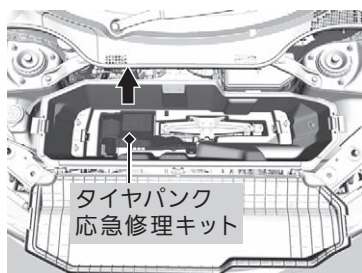
タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急処理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備

■タイヤパンク応急修理キット



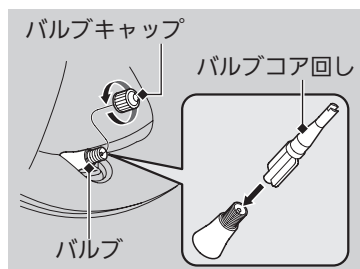
1. ユーティリティボックスを開けて工具袋を取り出してから、リッドを取り外す。



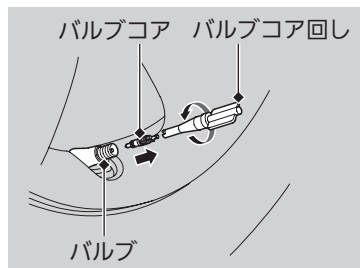
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

■ 応急修理剤の注入



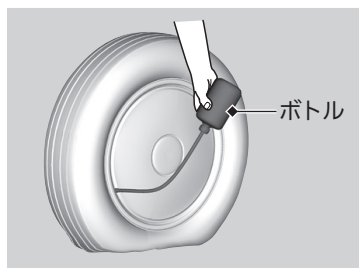
1. バルブからバルブキャップを取り外す。
2. バルブコア回しの突起部分をバルブに押し当てて、タイヤの空気を完全に抜く。



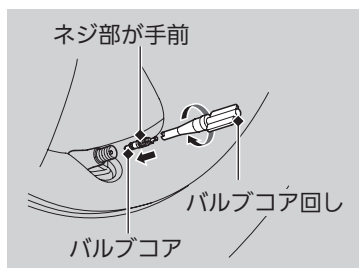
3. バルブコア回しで、バルブコアを回して外す。
▶ 外したバルブコアは、汚れないようきれいなところに保管します。



4. 応急修理剤のボトルをよく振る。
5. 応急修理剤のキャップを外す。
▶ 内ブタは取り外さないでください。
6. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態、ボトルに注入ホースを取り付ける。
▶ 注入ホースをねじ込むと、内ブタが破れます。



7. 注入ホースをバルブに差し込む。
8. 応急修理剤のボトルを逆さまに持ち、ボトル内の修理剤を全てタイヤの中に注入する。
 - ▶ 全ての修理剤がタイヤの中に入るよう、手でボトルを何回も圧迫してください。



9. 注入後、注入ホースをバルブから引き抜く。
10. バルブコアをバルブに取り付け、バルブコア回しで回し、しっかりねじ込む。

⚠ 警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさん水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合、

- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

⚠ 注意

タイヤの空気は完全に抜く。

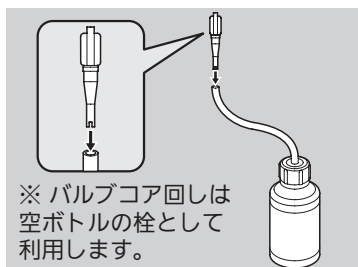
タイヤに空気が残っていると、バルブコアが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

注入ホースを取り付けたあと、応急修理剤のボトルを振らない。

修理剤が注入ホースから飛び出るおそれがあります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

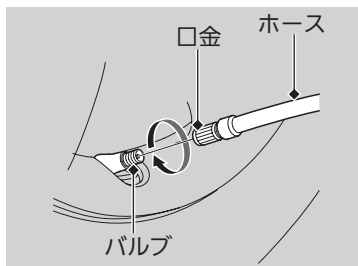


注入が終わった空ボトルから修理剤がもれないよう、バルブコア回しで注入ホースに栓をしてください。空ボトルはユーティリティボックスに収納してください。

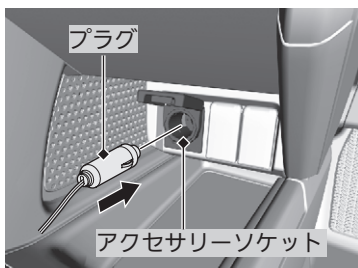
注入後の空ボトルは、タイヤ修理時に使用済み応急修理剤の回収に使用します。

捨てずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。

■エアの注入

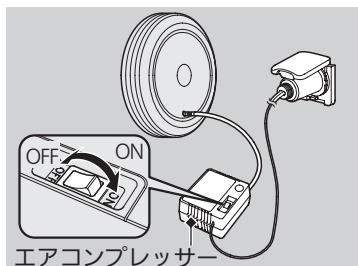


1. エアコンプレッサーを準備する。
2. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。



3. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

➡ アクセサリソケット P.47



4. エンジンを開始する。
➡ 一酸化炭素について P.21
5. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、空気を入れる。

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

キャップが飛び出すと
黄色が見えます



6. エアコンプレッサーのキャップの飛び出しを確認する。

▶ 空気の注入が終了すると、キャップが飛び出し、「ピー」と鳴ります。

▶仕様 P.127

▶ キャップの黄色部が見えていることを確認します。

7. エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。

8. タイヤパンク応急修理キットを格納する。

⚠ 警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

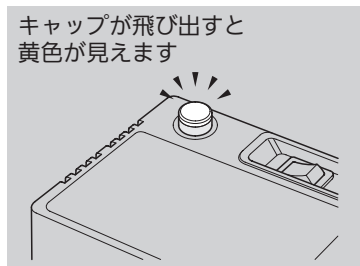
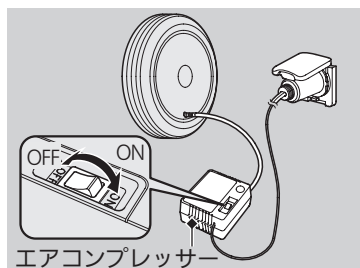
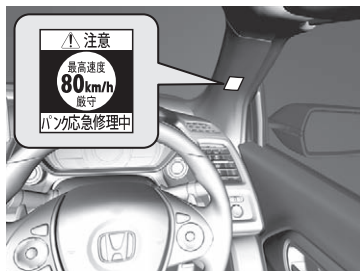
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用 12 V 専用です。他の電源は使用しないでください
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください

10 分以内にキャップが飛び出さない場合は、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

■点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
 - ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10 分または 5km 走行したあと安全な場所に車を停める。
4. 再度エアコンプレッサーを接続する。
5. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、キャップの飛び出しを確認する。
 - ▶ 空気の注入が終了すると、キャップが飛び出し、「ピー」と鳴ります。
 - ▶ 1 分以内にキャップが飛び出し、キャップの黄色部が現れれば、応急修理は完了です。
 - ▶ 1 分以内にキャップが飛び出ない場合は、運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
6. エアコンプレッサーのスイッチを OFF にして、格納する。

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。

SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。

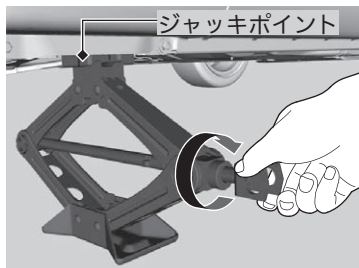
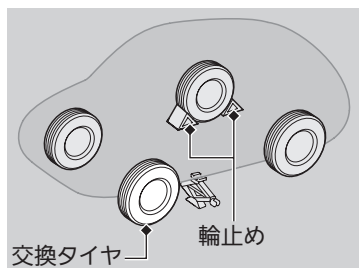
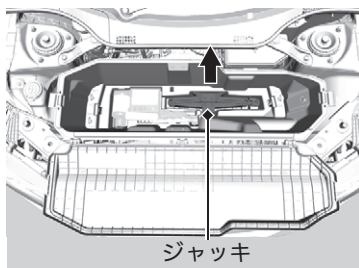
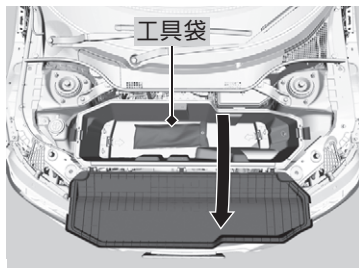
安全運転の妨げとなります。

走行前に、エアコンプレッサー、空ボトルなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

ジャッキの取り扱い

ジャッキのかけかた



1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。

無段変速オートマチック車

2. セレクトレバーを[P]に入れる。

マニュアル車

2. チェンジレバーを[R]に入れる。

共 通

3. パーキングブレーキをかける。

4. パワーモードを OFF モードにする。

5. ユーティリティボックスを開けて、工具袋からジャッキハンドルバーとジャッキハンドルを取り出す。

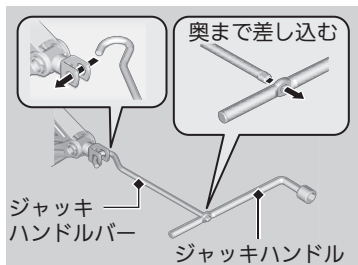
6. リッドを取り外し、ジャッキを取り出す。

7. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。

8. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

9. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分に矢印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



10. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

⚠ 警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 注意

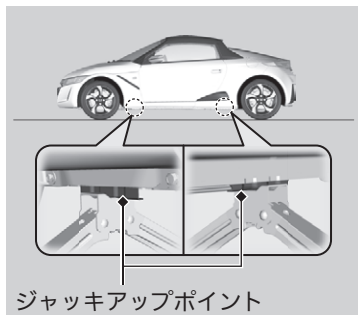
ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下に物を入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。

このジャッキで別の車を上げたり、この車を上げるために別の車のジャッキを使用した場合、車両かジャッキが破損することがあります。

ジャッキポイントは、下記の通りです。



エンジンが始動しない

エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ スターターの回転が非常に遅い！	- エンジン始動の作動範囲を確認します。 ➡ENGINE START/STOP スイッチ P.41 - ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないとき ➡Honda スマートキーの電池が切れたとき P.112
バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	室内灯などの明るさを確認する 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 - 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 - 室内灯などの明るさに問題がない場合 ➡ヒューズの点検と交換 P.122
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	エンジン始動の手順を実行する もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ➡エンジンの始動 P.65 燃料の量を点検する 燃料が入っているか確認してください。 ヒューズを点検する 全てのヒューズを確認してください。 ➡ヒューズの点検と交換 P.122

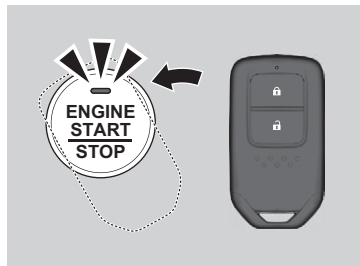
以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

➡ジャンプスタート P.113

Honda スマートキーの電池が切れたとき

[ENGINE START/STOP]によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



1. [ENGINE START/STOP]を押す。
▶ 「ピーピーピーピーピー」 とブザーが鳴り、インジケーターが約 30 秒間点滅します。
2. インジケーターが点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶ 「ピッ」とブザーが鳴り、インジケーターが約 10 秒間点灯します。
3. インジケーターが点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、[ENGINE START/STOP]を押す。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリモードになります。

緊急時のエンジン停止方法

[ENGINE START/STOP]は走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。

エンジンを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください。

- [ENGINE START/STOP]を約 2 秒以上押す
- [ENGINE START/STOP]を 2 回連続して押す

このとき、ハンドルロックはされていません。

無段変速オートマチック車

エンジンが停止すると、パワーモードはアクセサリモードになります。

パワーモードを OFF モードにするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください。

1. セレクトレバーを[P]に入れる。
2. ブレーキペダルを踏まずに[ENGINE START/STOP]を 2 回連続して押す。

マニュアル車

パワーモードは OFF モードになります。

- 車両が完全に停止後、クラッチペダルを踏まずに[ENGINE START/STOP]を 3 回連続して押す
▶ ハンドルがロックされます。

緊急時など必要な場合以外は、走行中に[ENGINE START/STOP]を押さないでください。

ジャンプスタート

警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。

エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをエンジンのアース以外の端子に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■処置のしかた

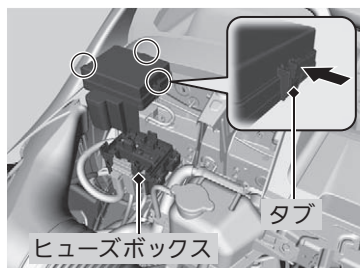
まず、フロントフードを開け、ユーティリティボックスを取り外してバッテリーの状態を確認します。

➡ユーティリティボックスの外しかた P.92

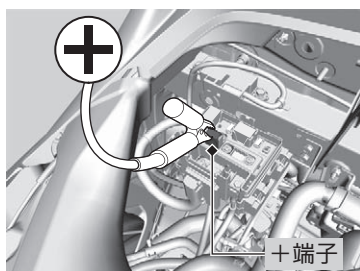
バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

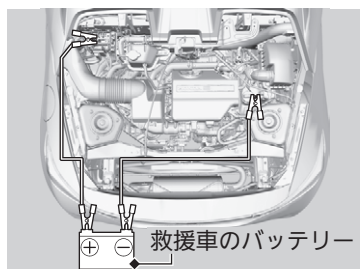
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



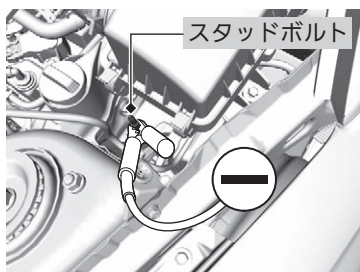
1. 自車と救援車の電源を OFF にする。
2. リヤフードを開け、ヒューズボックスのカバーを取り外す。



3. ブースターケーブルを、自車のエンジンルームにあるヒューズボックスの⊕端子に接続する。



4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子に接続する。
 - ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
 - ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。



5. もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの⊖端子に接続する。
6. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
7. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
8. 自車のエンジンを始動する。

■エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊖端子から外す。
3. 自車のエンジンルームにあるヒューズボックスの⊕端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

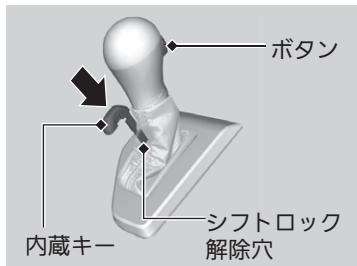
ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

無段変速オートマチック車

セレクトレバーが、**[P]**の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
4. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを**[N]**に入れる。
▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒート

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

⚠ 警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでリヤフードを開けない。

エキスパンションタンクから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにエキスパンションタンクキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずタンクが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。

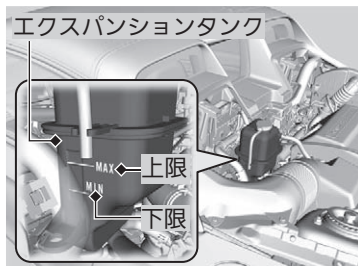
- ▶ セレクトレバーを[P]（無段変速オートマチック車）に入れ、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. 蒸気が出ていない場合：エンジンをかけたままリヤフードを開ける。

蒸気が出ている場合：エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからリヤフードを開ける。

🔧 リヤフードを開ける P.89

■次にすること



1. フロントフードを開けて冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを停止する。

- ▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。

- ▶ 冷却水量が不足していたら、エキスパンションタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

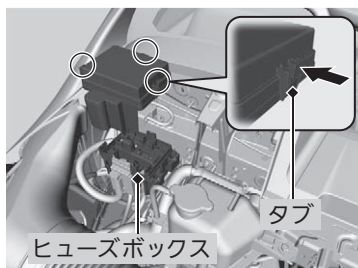
十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し高水温警告灯を確認する。警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

ヒューズ

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、4つのヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



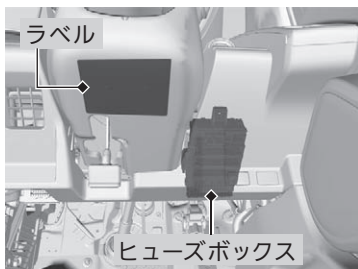
エンジンルーム内の助手席側に付いているエクスパンションタンクの隣にあります。タブを押して開けてください。

■各ヒューズの装備と容量

表示	装備	容量
1	 スターターマグ ネチックヒューズ	7.5A
2	 STRLD	7.5A

表示	装備	容量
3	 スターター	30A
4	 バッテリーメイン	100A

■室内運転席側のヒューズボックス



アクセルペダルの上にあります。

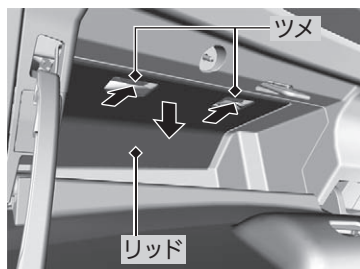
■各ヒューズの装備と容量

表示	装備	容量
1 	エアコン	7.5A
2 —	—	—
3 —	—	—
4 —	—	—
5 	メーター	7.5A
6 —	—	—
7 	オプション	7.5A
8 	発電機	7.5A
9 	フューエルポンプ	15A
10 	ABS/VSA	7.5A
11 	パワーウィンドー	10A
12 	フロントワイパー	7.5A
13 	イグニッションコイル	15A
14 —	—	—
15 —	—	—
16 —	—	—
17 —	—	—
18 —	—	—
19 	右側ドアアンロック	10A
20 	左側ドアアンロック	10A
21 —	—	—
22 	右側ドアロック	10A

表示	装備	容量
23 —	—	—
24 	SRS エアバッグシステム	10A
25 	イルミネーション	10A
26 	ACC キーロック	7.5A
27 	スモールライト	10A
28 —	—	—
29 	右側ヘッドライトハイビーム	10A
30 	ウォッシャー	10A
31 	Honda スマートキーシステム	10A
32 	運転席パワーウィンドー	20A
33 	助手席パワーウィンドー	15A
34 —	—	—
35 	リヤパワーウィンドー	20A
36 —	—	—
37 	ACC	7.5A
38 —	—	—
39 	左側ヘッドライトハイビーム	10A
40 	フロントアクセサリソケット	20A
41 	左側ドアロック	10A
42 	ドアロック	20A

7 万1の場合には

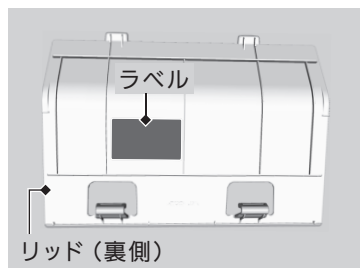
■室内助手席側のヒューズボックス



グローブボックスを開き、リッドを取り外します。



エアクリーンフィルターの上にあります。



上部のリッドに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

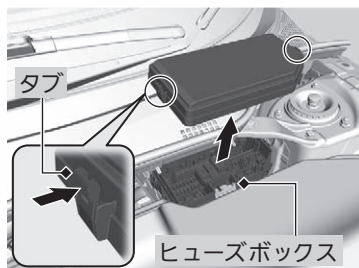
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		VB ソレノイド	7.5A
2		ABS/VSA	7.5A
3		ACC	7.5A

	表示	装備	容量
4		バックアップ メイン	10A
5		メーター	7.5A
6	—	—	—

■フロントコンパートメント内のヒューズボックス



フロントコンパートメント内の助手席側にあります。

■各ヒューズの装備と容量

容量に () が付いているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

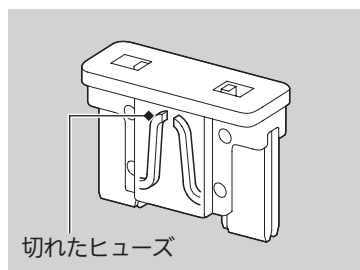
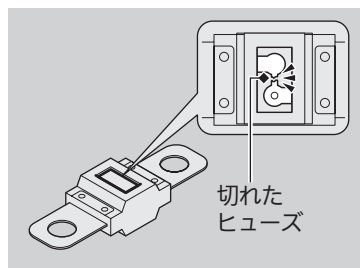
	表示	装備	容量
1		EPS	60A
		ABS/VSA モーター	40A
		DC/DC1	(30A)
	—	—	30A
		DC/DC2	(30A)
2	—	—	50A
		ヒューズボックス メイン	60A
	—	—	40A
		イグニッション メイン 1	30A
		ヘッドライト ハイビームメイン	30A
		イグニッション メイン 2	30A
		メインファン	30A
	—	—	40A

	表示	装備	容量
2		ヒーター モーター	30A
		ヘッドライト ロービームメイン	20A
		ワイパー	20A
3	—	—	—
4		LAF センサー	7.5A
5		右側ヘッドライト ロービーム	10A
6		左側ヘッドライト ロービーム	10A
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
11	—	—	—
12	—	—	—
13	—	—	—
14		非常点滅表示灯	10A

表示	装備	容量
15	 ABS/VSA FSR	20A
16	—	—
17	—	—
18	 ホーン・制動灯	10A
19	—	—
20	—	—
21	 ドライブバイワイヤ	15A
22	—	—

表示	装備	容量
23	 FI メイン	15A
24	 バッテリーセンサー	(7.5A)
25	 MG クラッチ	7.5A
26	 室内灯	7.5A
27	 車幅灯メイン	20A
28	—	—
29	 バックアップ	10A

ヒューズの点検と交換



1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリを OFF にする。
2. ヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
 - ▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
4. エンジンルーム内と室内、フロントコンパートメント内の小さいヒューズを点検する。
 - ▶ 切れているヒューズがあったら、新しいものと交換してください。

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

けん引

非常時のけん引

けん引は専門業者に依頼して四輪または後輪を持ち上げて行ってください。

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、四輪または後輪を持ち上げてけん引してください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

長い下り坂では、ブレーキの温度が上がリブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

アドバイス

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

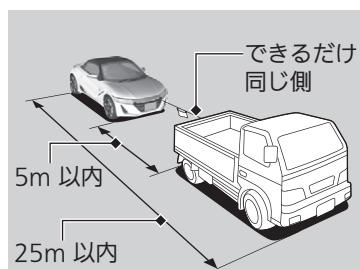
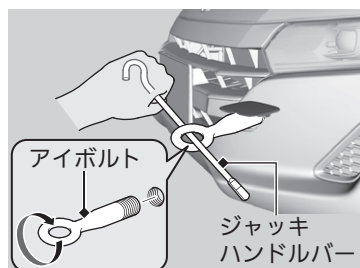
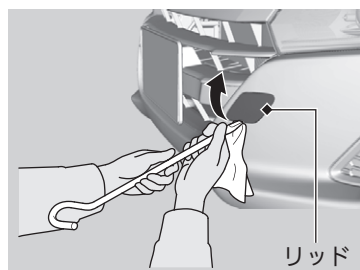
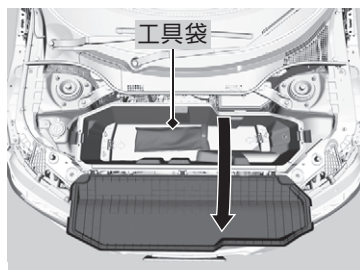
- ハンドルがロックしていないか確認する
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- 無段変速オートマチック車は、トランスミッションが破損するおそれがある

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。フックが破損するおそれがあります。

後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

■やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード（オイル）などが漏れていないことを確認する。
▶ 異常がある場合は、四輪または後輪を接地させてのけん引は行わないでください。
2. フロントフードを開ける。
3. ユーティリティボックスのカバーを開けて、工具袋からジャッキハンドルバーとアイボルトを取り出す。
4. ジャッキハンドルバーの先でリッドを開ける。
▶ バンパーが傷つかないように、ジャッキハンドルバーの先に布などを巻き付けてください。
5. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。
6. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3m 平方以上）を付ける。
7. マニュアル車は、エンジンをかける。無段変速オートマチック車は、エンジンをかけてセレクトレバーを **D** にし、約 5 秒間保持する。
▶ エンジンがかからないときは、アクセサリーモードまたは ON モードにします。
8. セレクトレバーまたはチェンジレバーを **N**（ニュートラル）にする。
9. パーキングブレーキを解除する。
10. けん引する。
▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。
▶ 速度 30km/h 以下、走行距離 80km 以内でけん引してください。



ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリモードにならない



- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、**ENGINE START/STOP** を押してください。



ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードにならない



- セレクトレバーが**P**以外の位置になっていませんか？



ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した



- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。



キーレスエントリーでドアを解錠したはずなのに施錠されている



- キーレスエントリー、Honda スマートキーで解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



運転席ドアを開けるとブザーが鳴る



- 「ピピピピ」と鳴るときはパワーモードを OFF モード以外にしていますか？
- 「ピー」と鳴るときはライトを消し忘れていませんか？
アイドリングストップシステム装備車
- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けると「ピーッピーッピーッ…」と鳴ります。



走行するとブザーが鳴る



- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？



走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音ができる



- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
Honda 販売店で点検を受けてください。



レギュラーガソリン仕様車にプレミアム（ハイオク）ガソリンを使用しても大丈夫ですか？



- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

仕様

■仕様

名称	S660
排気量	658cm ³
車体形状	2 ドアコンパチブル
乗車定員	2 名

■調節

ベルトの たわみ量		
	A: 補機ベルト (発電機)	10.5-11.5mm { 約 98N (10kgf) の力 }
	B: 補機ベルト (エアコンディ ショナー)	8.5-9.5mm { 約 98N (10kgf) の力 }
点火プラグ	NGK	ILZKAR8F8S
	DENSO	SXE24HCR8S
電極のすき間	基準値	0.7-0.8mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキ ペダル	遊び	1-6.7mm
	床板とのすき間	145mm 以上 { 約 196N (20kgf) の力 }
	カーペットと のすき間 (参考値)	129mm 以上 { 約 196N (20kgf) の力 }
パーキング ブレーキ	引きしろ	6 ~ 8 ノッチ { 約 196N (20kgf) の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリ ン (E10/ETBE22)
燃料タンク 容量	25ℓ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■バッテリー

容量/タイプ	32AH (5)/M-42R ※ ¹ 28AH (5)/38B19R ※ ²
--------	---

※ 1 : 無段変速オートマチック車

※ 2 : マニュアル車

■ウォッシャー液

タンク容量	1.2ℓ
-------	------

■電球

ヘッドライト (ロービーム)	LED
ヘッドライト (ハイビーム)	12V-60W ※ ¹
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
車幅灯	LED
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯	12V-5W ※ ² 12V-5W (橙色) ※ ³
制動灯/尾灯	LED
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
後退灯	12V-21W
ハイマウントストップ ランプ	LED
番号灯	12V-5W
室内灯	12V-8W

※ 1 : ハロゲンバルブ

※ 2 : オレンジレンズ装備車

※ 3 : クリアレンズ装備車

仕様

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	-----------------------------------

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ HMMF ※ ¹	2.3ℓ (交換時)
	Honda 純正ウルトラ MTF-III ※ ²	1.3ℓ (交換時)

※ 1：無段変速オートマチック車

※ 2：マニュアル車

■推奨エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル	ULTRA LEO ※ ¹	API SN 級 SAE 0W-20
	ULTRA LTD	API SN 級 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	2.4ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.6ℓ

※ 1：最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	5.00ℓ (交換時：エキスパンションタンク 0.50 ℓ、ヒーター 0.38 ℓ含む)

■タイヤ

サイズ	前輪	165/55R15 75V
	後輪	195/45R16 80V
空気圧 kPa (kgf/cm ²)	前輪	190 (1.9)
	後輪	200 (2.0)
リムサイズ	前輪	15 × 5J
	後輪	16 × 6 1/2J

数字

7 速マニュアルシフトモード 68

A

ABS (アンチロックブレーキシステム) 75

A/C (エアコン) 47

B

Bluetooth オーディオの
使いかた 57

C

CRUISE CONTROL
(クルーズコントロール) 71

E

ENGINE START/STOP
スイッチ 41

G

G メーター表示画面 55

H

Honda スマートキー 33, 35

HDMI[®] ジャック 48

I

iPod の使いかた 52, 56

iPod 対応 USB プレーヤー/
FM・AM チューナー 50

M

MIST 42

R

RANGE (航続可能距表示) 30

S

SPORT モードスイッチ (無段変速
オートマチック車) 70

SRS エアバッグ 12

U

USB ジャック 48

USB デバイスの使いかた 53, 57

V

VSA (ビークルスタビリティ
アシスト) 73

W

W (ワット数) 127

ア

アイドリングストップシステム 70

アクセサリソケット 47

安全なドライブのために 7

安全に関する表示 5

安全のための確認事項 7

アンチロックブレーキシステム
(ABS) 75

イ

一酸化炭素の危険性 21

イルミネーション 43

インフォメーションディスプレイ 30

ウ

ウィンドウォッシャー 42

ウィンドーの開閉 37

運転

エンジンの始動 65

クルーズコントロール 71

シフト操作 67, 69

ブレーキ操作 74

運転の準備 63

エ	
エアコン	47
エアバッグ	11
SRS エアバッグ	12
エアバッグのお手入れ	16
サイドエアバッグ	13
エクспанションタンク	117
エマージェンシーストップ	
シグナル	75
エンジンオイル	91
エンジンスイッチ	41
エンジンの始動	65
エンジンが始動しない	111
ジャンプスタート	113
エンジンルーム／フロントコンパート	
メント内のメンテナンス	89
ウィンドウォッシャー液の補給	91
エンジン冷却水	117, 128

オ	
追越合図 (パッシング)	42
応急修理剤 (タイヤパンク)	101
オーディオ装置	48
オーディオリモートコントロール	
スイッチ	49
オートエアコン	47
オーバーヒート	116
お子さまの安全	16
オドメーター	30
音質、バランス、車速連動の	
音量調整	51, 55

カ	
ガソリン	82, 127
画面の切り換え	50, 54

キ	
キー	
Honda スマートキー	33, 35
Honda スマートキーの電池が	
切れたとき	112

キーの種類と機能	33
給油	82

ク	
空気圧	128
クルーズコントロール	71
車の改造	86

ケ	
計器	22
警告灯	22
けん引	123

コ	
交換	
電球	92
ワイパーブレードラバー	96
航続可能距離表示	30
後退灯電球	95
後面方向指示器／	
後面非常点滅表示灯	94

サ	
サービス診断記録装置	5
サイドエアバッグ	13

シ	
シートの調節	45
シートベルト	7
シートベルトのアンカー	
ポイント	11
シートベルトプリテンショナー	8
時刻の設定	32
室内装備品	46
シティブレーキアクティブ	
システム	76
シフトスイッチ	69
シフト操作	67, 69
ジャッキ	109
ジャンプスタート	113
仕様	127

ス

スイッチ操作	
エンジンスイッチ	41
ライトスイッチ	42
ワイパー／ウォッシャー	42
ステアリング	43
スノータイヤ	99
スパークプラグ	127
スマートフォン連携	58

セ

清掃	99
セキュリティシステム	36
セレクト／リセットスイッチ	30
セレクトレバー	
セレクトレバーが動かない	116
セレクトレバーの操作	67
センターディスプレイ (スマートフォン 連携ナビ対応オーディオ)	54

ソ

側面方向指示器／ 側面非常点滅表示灯	94
-----------------------	----

タ

ターボ車	85
タイヤ	97
指定空気圧	128
タイヤパンク応急修理キット	101

チ

チャイルドシート	17
駐停車操作	81

テ

デフロスター	47
点火プラグ	127
電子制御ブレーキアシスト	75

ト

ドアの施錠と解錠	33
ドアミラー	44
冬のタイヤ	99
時計	32
トラブルシューティング	
オーバーヒートした	116
けん引してもらいたい	123
ジャンプスタートしたい	113
セレクトレバーが動かない	116
パンクした	101
ヒューズが切れた	118
トランスミッションフルード	128
トリップメーター	30

ニ

乳幼児の安全	17
--------	----

ネ

燃料	82, 127
----	---------

ハ

パーキングブレーキ	74
排気ガスの危険性	21
ハイビーム	42
発炎筒	101
パッシング	42
バッテリー	
ジャンプスタート	113
容量	127
パワーウィンドウの開閉	37
パンク	101
ハンズフリーテレフォン	60
ハンドル位置調節レバー	43

ヒ

ビークルスタビリティアシスト (VSA)	73
ヒューズ	118
表示灯	27

フ

ブースターケーブル	113
フューエルリッドの開けかた	83
ブレーキ	74
ブレーキフルード	128
フロントフード (ボンネット) を開ける	90

ヘ

平均燃費表示 (AVG)	30
ヘッドライト	42
電球の交換	92

ホ

ホイールサイズ	128
ボンネット (フロントフード)	90

ミ

ミラー	44
-----------	----

メ

メーター	30
メンテナンス	87
清掃	99
タイヤの点検と整備	97
ライト類の点検と整備	92
ワイパーブレードラバーの点検と 整備	96

ラ

ライトスイッチ	42
ライト類の点検と整備	92
ラジエーター	116

リ

リムサイズ	128
リヤカメラシステム	82
リヤフードを開ける	89

ル

ルームミラー	44
--------------	----

レ

冷却水	116, 128
オーバーヒート	116

ロ

ロールトップ	38
--------------	----

ワ

ワイパー／ウォッシャー	42
ワイパーブレードラバー	96

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <http://www.honda.co.jp/>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/>

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客 様相談センター
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-^{イフレアイオ}112010

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただく
ために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認の
うえ、ご相談ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離 ③ ご購入年月日 ④ 販売店名